

各圏域における令和 2 年度中の取組状況

～5 疾病・5 事業および在宅医療～

| | | |
|------|-------------------------|---------|
| 1. | がん | (1) |
| 2. | 脳卒中 | (5) |
| 3. | 心筋梗塞等の心血管疾患 | (8) |
| 4. | 糖尿病 | (1 0) |
| 5. | 精神疾患 | (1 3) |
| 6. | 救急医療 | (2 3) |
| 7. | 災害医療（災害時公衆衛生活動を含む） | (2 4) |
| 8. | 地域医療（医師確保等によるへき地医療の体制確保 | (2 6) |
| 9. | 周産期医療 | (2 9) |
| 1 0. | 小児救急を含む小児医療 | (3 2) |
| 1 1. | 在宅医療 | (3 3) |

がん

R02年度中の取組み状況（各圏域）

1. がん予防（発生リスクの低減、早期発見・早期受診）の推進

| | |
|----|--|
| 松江 | <p>○出前講座を市民、特に事業所等に積極的にPRし、働き盛り世代に生活習慣の改善に向けての正しい知識や生活に取り入れるための工夫等の情報提供を行っている。</p> <p>○がん検診チェックリストにより、両市担当者と情報交換しながら精度管理や事業評価を行っている。</p> <p>○検診の受診向上に向けた取組の実施（特に大腸がん） 9月がん征圧月間で啓発コーナー設置（啓発チラシ）</p> |
| 雲南 | <p>○大腸がん検診精検未受診者への受診状況調査（奥出雲町）</p> |
| 出雲 | <p>○健康長寿推進会議の「たばこ・アルコール」「食生活」運動」「こころ」「歯科」の分科会を中心に、がんの一次予防について啓発</p> <p>○がん検診の精度管理について、がん検診チェックリストを基に市と実施状況を確認。</p> <p>○まめなカンパニーやヘルスマネジメント認定事業所の拡大に向けた啓発実施。</p> <p>○胃がん検診の受診率向上を目指し、胃内視鏡検診の実施体制を市で検討された。</p> <p>○改正健康増進法の全面施行により、受動喫煙防止義務違反事例について改善に向けて確認、助言等を実施。</p> |
| 県央 | <p>○がんの一次予防について、健康長寿しまねの推進やしまね健康寿命延伸プロジェクト事業の取組と併せて実施</p> <p>○事業所等への出前講座の実施 ・「減塩・禁煙・運動」の内容で事業所等にて健康教育を実施。</p> <p>○保健所、市町担当者の連絡会で圏域の課題や各市町の取組等の情報共有、意見交換を実施(2/5)</p> <p>○しまね☆まめなカンパニー、ヘルス・マネジメント認定制度の周知（R3.12月末時点大田圏域登録事業所：しまね☆まめなカンパニー23社、ヘルス・マネジメント15社）</p> <p>○各市町のがん検診に関する連絡会への参加(2/18大田市、2/18邑智郡3町)</p> |
| 浜田 | <p>○改正健康増進法を踏まえた受動喫煙防止対策の推進 ・合庁職員および来館者に対してポスター掲示等による啓発 ・リーフレット、チラシ等を高校1年生、3年生対象に配布。 ・ケーブルテレビを利用した啓発。（保健所）</p> <p>○減塩、野菜摂取等健康的な食習慣に関する啓発、メタボリックシンドローム予防に関する啓発 ・「鍾馗めし」プロジェクト、「野菜たっぷり・塩ちょっぴり！！」の普及啓発（保健所）</p> <p>○「健康をとどけたい《プラス1》ファイル」（作成：浜田圏域健康長寿しまね推進会議）に、各種チラシ等を掲載。（保健所）</p> <p>○浜田圏域職場の健康づくり情報ファイル（作成：浜田圏域地域・職域連携推進協議会）に、がん検診に関する情報を記載。関係機関に配布している。（保健所）</p> <p>○検診受診率並びに保健指導率の向上に向けた取り組み強化（全国健康保険協会）</p> <p>○新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、感染予防を講じたがん検診の実施。【予約制】（浜田市）</p> <p>○新型コロナウイルス感染対策を実施しながら、各種がん検診を実施した。また、受診啓発活動や一部検診費用の助成、精密検査対象者への受診勧奨、がんケアサロン江津（患者会）への支援の実施。（江津市）</p> <p>○各市町村の各種がん検診を実施（受託）。また、職域健診にがん検診を追加実施できるよう努めた。（環境保健公社）</p> <p>○がん検診の勧奨。（西部島根医療福祉センター）</p> <p>○がん予防の強化として健診センターのさらなる充実のため、医師1名を採用するべく面談等を実施したが、残念ながら最終的に採用とはならなかった。（浜田医療センター）</p> <p>○「がん情報提供促進病院」として「地域がん診療連携拠点病院」である浜田医療センターと連携して、がん情報の提供を行っています。（済生会江津総合病院）</p> |

| | |
|----|--|
| 益田 | <p>○がん征庄月間（9月）、がん検診受診率50%達成に向けた集中キャンペーン月間（10月）に合わせてリーフレットや啓発グッズを配布。事業所に乳がん模型の貸し出しを行い啓発に取り組んだ。</p> <p>○「益田市をモデルとした子宮頸がん検診受診率向上事業」昨年度の事業報告を医療機関へ行うものに同行。</p> <p>○がん予防として重要なたばこ対策、栄養、運動等生活習慣の改善等について、益田圏域健康長寿しまね推進会議の中で啓発を行った。</p> |
| 隠岐 | <p>○隠岐圏域健康長寿しまね推進会議の共通テーマとして、受動喫煙防止対策を掲げて実施。公共施設の敷地内禁煙が進んでいる。</p> <p>○隠岐圏域は「働き盛り世代への健康づくり活動の推進」を意識している。島前・島後の事業所訪問を実施し、生活習慣病予防・健診受診・精密検査受診の徹底を働きかけている。</p> <p>○隠岐圏域は「肺がん」による死亡が多く、肺がん予防を意識した「たばこ対策」の取組を保健所・各町村で共通展開。</p> <p>○各町村の要望に合わせ、データ集計・分析を行い情報提供している。</p> |

2. がん医療

| | |
|----|--|
| 松江 | <p>OR2. 8. 4 乳がんクリティカルパス検討会を開催し、拠点病院の取り組みを共有。</p> <p>OR2. 12. 4 乳がんクリティカルパス勉強会へ参加し、情報共有を行う。</p> |
| 県央 | <p>○がん情報提供促進病院として、圏域3病院（大田市立病院、公立邑智病院、加藤病院）が指定更新された。他圏域のがん診療拠点病院との連携によりがん医療の向上、がん相談体制の整備及び普及啓発、情報提供事業の整備を推進。</p> |
| 浜田 | <p>○要件不足があるとして特例型のがん診療連携拠点病院となっていたが、本年度に要件をクリアした。（浜田医療センター）</p> <p>○周術期等の口腔機能の管理。（浜田江津歯科医師会）</p> |
| 隠岐 | <p>○隠岐病院・島前病院の緩和ケア認定看護師等に、病院のがん治療の状況、クリティカルパスの運用状況等を聞き取り調査を実施。</p> |

3. 緩和ケア

| | |
|----|---|
| 松江 | <p>○H26年9月から「松江圏域緩和ケアに係る情報提供書」の運用開始。近年、運用件数は横ばいだが、新規の紹介先医療機関が増えてきている。</p> <p>○OR3. 2. 9 松江圏域緩和ケア検討会を開催。緩和ケアにおいて、病院から地域へスムーズな移行や関係機関との連携の強化をねらいとし、各関係機関の取り組みの共有、課題に対する今後の方向性を検討している。</p> <p>○がん診療連携拠点病院において、緩和ケアやACPの研修会が実施されている。</p> <p>○松江市在宅医療・介護連携支援センターでは、ACP市民講座や出前講座を通して、住民に普及啓発している。</p> |
| 雲南 | <p>○地域ケア多職種連携会議において、医療介護関係者でもしばなゲームを用いた研修実施（奥出雲町）</p> |

| | |
|----|---|
| 出雲 | <p>○慢性期病棟における緩和ケアの取組が求められており、人材育成のための研修会を開催することとしていたが、コロナ感染症拡大のため中止。</p> <p>○チラシ「支援スタッフに伝えたいこと」の作成・配布</p> <p>○緩和ケア検討会を書面会議とし、緩和ケアの進捗状況、課題について関係機関と検討する予定（R3.3月予定）</p> <p>○コミュニティ単位での講演会開催を予定していたが、コロナ感染症拡大のため中止。</p> |
| 県央 | <p>新型コロナウイルス感染症のため、緩和ケアネットワーク大田としての活動が行えず。</p> |
| 浜田 | <p>○緩和ケアアドバイザー養成研修会における実習受け入れ（訪問看護）</p> <p>○緩和ケアの精神科医師の確保や緩和ケア専従の医師の必要性について検討することとしていたが出来ていない。（浜田医療センター）</p> <p>○国民健康保険診療所において、へき地での看取りを支援。（浜田市）</p> <p>○アドバンスケアプランニングの取組みを実施。（浜田市）</p> <p>○浜田圏域在宅医療・介護連携ワーキング（令和2年11月20日開催）にて緩和ケアの現状・課題等について関係機関と情報共有を実施。今後もワーキングの場にて情報共有し、取組を検討していく予定。（保健所）</p> <p>○がん対策基本法に基づくがん対策推進基本計画における「緩和ケア研修」を主催開催した。（浜田医療センター）</p> <p>○緩和ケアや意思決定支援の考え方について市民公開講座等を開催し、啓発しています。（済生会江津総合病院）</p> <p>○意思決定支援チームを作り、組織全体で緩和ケアを含める意思決定の支援体制を整えています。（済生会江津総合病院）</p> |
| 益田 | <p>○例年参画していた益田赤十字病院の緩和ケアアドバイザー連絡会が新型コロナウイルス感染症の影響により外部の参加ができなかったため、緩和ケアアドバイザー連絡会へ地域の取組みに関し情報発信を行った。</p> <p>○患者・家族の意思決定支援の取組として、3市町の在宅医療・介護推進事業において、住民啓発の取組みが進んできている。</p> |
| 隠岐 | <p>○隠岐圏域地域連携ハンドブックを更新し、隠岐の病院・診療所・歯科医院・介護施設・薬局・訪問看護で医療的ケアで対応できる項目の確認を行った。医療的ケアが必要になると受け入れが難しい施設が多く、療養先の受け皿の確保等の課題が見えてきた。関連会議で検討を重ねる。</p> |

4. がん登録

| | |
|----|---|
| 浜田 | <p>○院内がん登録実務中級者認定試験に3名合格した。（浜田医療センター）</p> |
|----|---|

5. 患者支援

| | |
|----|---|
| 県央 | <p>新型コロナウイルス感染症のため、緩和ケアネットワーク大田としての活動が行えず。</p> |
| 浜田 | <p>○例年はがん等の疾病ごとに市民公開講座を開催し、普及啓発活動をおこなっていたが、今年度は新型コロナの影響により開催が出来なかった。（浜田医療センター）</p> |
| 益田 | <p>○「在宅医療・緩和ケア資源情報」を作成・随時更新し、情報提供を実施。</p> <p>○がんサロンの運営について、益田赤十字病院及び関係市町との連携・支援をしている。</p> |
| 隠岐 | <p>○がんサロンに参加し、体験者の意見を各種会議に反映。</p> |

6. がん教育

| | |
|----|--|
| 県央 | ○子どもに最初の1本を吸わせないために、小中学校と連携し防煙教室を実施。（実施:1中学校、資料提供:2小学校） ○高校の文化祭で、喫煙による健康被害の啓発を実施。 |
| 浜田 | ○県主催のがん教育外部講師フォローアップ研修に参加（浜田会場の設置）（保健所） ○がんサロンとのがん教育や啓発事業を実施。（浜田市） |
| 益田 | ○小学校の授業の中で、がん教育を実施。 ○がん予防として重要な受動喫煙対策については、児童・生徒向けパンフレットを管内養護部会にて紹介。 |

脳卒中

R02年度中の取組み状況（各圏域）

1. 脳卒中予防（発症予防、早期発見）の推進

| | |
|----|---|
| 松江 | <p>○しまね高血圧予防キャンペーンの実施 5月18日（月）～29日（金） いきいきプラザ島根（1階自動血圧計横） 啓発コーナー設置（啓発チラシ、健康手帳、血圧手帳）まめなサポーター（17名）、まめなカンパニー（57か所）に啓発チラシ配布</p> <p>○しまね健康寿命延伸プロジェクトにより島根県の健康課題を、健康長寿しまねの各分科会や働きざかりの健康づくり推進連絡会等でも共有し、プラス1活動を検討。</p> <p>○働きざかりの健康づくり活動として、事業主セミナーを動画配信予定（2月予定）</p> |
| 雲南 | <p>○AIを活用した特定健康診査未受診者対策の実施（奥出雲町、飯南町）</p> |
| 出雲 | <p>○地域・職域連携推進連絡会における「事業所での高血圧対策の取組」を実施し、定期的な血圧測定を推奨。</p> <p>○健康長寿しまね推進会議において、減塩対策、喫煙対策の実施。</p> <p>○商工会議所所報により、高血圧予防について働きざかり世代へ情報発信。</p> <p>○高血圧週間には、各商工会議所・商工会、健康長寿構成団体を通じて啓発チラシを配布。</p> <p>○医療機関及び市と連携し「出雲圏域脳卒中再発予防事業」実施。</p> <p>○新型コロナウイルス発生があり、書面会議にて出雲圏域脳卒中予防対策検討会議を開催。脳卒中発症状況調査等をもとに圏域の課題について共有した。</p> <p>○しまね健康寿命延伸プロジェクト事業を実施し、モデル地区活動と健康長寿構成団体におけるプラスワン活動を推進。</p> <p>○改正健康増進法の全面施行により、受動喫煙防止義務違反事例について改善に向けて確認、助言等を実施。</p> |
| 県央 | <p>○「日本高血圧の日」にあわせた啓発の実施（各市町へ音声告知放送・データ放送を依頼）</p> <p>○脳卒中の一次予防について、健康長寿しまねの推進やしまね健康寿命延伸プロジェクト事業の取組と併せて実施</p> <p>○事業所等への出前講座の実施 ・「減塩・禁煙・運動」の内容で事業所等にて健康教育を実施。</p> <p>○脳卒中患者の再発防止支援の取組実施 ・圏域内病院からの発症連絡を受けて、介護保険にかからない症状の脳卒中発症者へ市町保健師による訪問指導を実施。</p> <p>○管内病院へのヒアリング ・保健医療計画中間見直しに向けて、脳卒中对策の取り組みについてヒアリングを実施</p> <p>○脳卒中对策調整会議の開催予定（3/12） ・圏域内各病院・各市町の脳卒中及び心疾患対策の取組等の情報共有、意見交換を実施</p> |

| | |
|----|---|
| 浜田 | <p>○圏域健康長寿しまね推進会議各部会において、減塩・野菜摂取に関する啓発を実施。 (減塩、野菜レシピ等の配架:キヌヤプリル ダップス本店 ゆめタウン江津) (保健所)</p> <p>○飲食店において野菜がとれる減塩のメニューの提供:鍾馗めしプロジェクト (保健所)</p> <p>○保健所内待合ロビーに血圧計を設置し、家庭血圧の測定および血圧の適正管理を推進。 (保健所)</p> <p>○浜田圏域地域・職域連携推進協議会において、壮年期の脳血管疾患の実態について各種データを基に情報共有を実施。疾病予防および基礎疾患管理について啓発が必要であることを共通理解とし取組を推進している。(保健所)</p> <p>○「健康をとどけたい《プラス1》ファイル」(作成:浜田圏域健康長寿しまね推進会議)に、各種チラシ等を掲載。(保健所)</p> <p>○脳卒中情報システム事業により、医療機関からの退院時情報について、各市へ情報提供を実施。(保健所)</p> <p>○浜田医療センター退院後、同意が得られた方に対して、家庭訪問をし、再発予防の指導を実施。(浜田市)</p> <p>○検診受診率並びに保健指導率の向上に向けた取り組み強化(全国健康保険協会)</p> <p>○生活習慣病予防普及へ出前講座を実施。(浜田市)</p> <p>○特定健診からハイリスク者を抽出し、受診勧奨および重症化予防指導の実施。循環器疾患発症予防及び重症化予防に向けた集団及び個別指導。広報活動。【江津市】</p> <p>○成人病リスクの高い方に対し、栄養指導を実施(予防対策)(西部島根医療福祉センター)</p> <p>○人間ドックのメニューとして脳ドックを実施している。(浜田医療センター)</p> <p>○職域への出前講座の実施。(浜田市)</p> <p>○脳卒中発症登録システムによる医療機関との連携と、個別保健指導の実施。【江津市】</p> |
| 益田 | <p>○脳卒中予防のための生活習慣の改善について、益田圏域健康長寿しまね推進会議を中心に啓発している。</p> <p>○「脳卒中情報システム事業」を行うとともに、「脳卒中発症者状況調査」の分析を実施した。</p> <p>○高血圧キャンペーンに併せ、庁舎内に啓発のぼりや血圧手帳を配置したり、関係機関にリーフレットを配布する等家庭血圧の測定の周知を行った。</p> <p>○益田市において産官学と連携したIoTを活用したスマート・ヘルスケア推進事業(家庭血圧測定普及等)を実施している。</p> <p>○病院から提出を受けた脳卒中発症連絡票を市町に送付し、退院後の訪問面接、保健指導につなげている。患者訪問時の状況報告書は、各市町から医療機関に還元されている。益田管内の4病院から退院連絡票の提出を受けている。</p> |
| 隠岐 | <p>○圏域健康長寿しまね推進会議栄養・食生活・歯科保健(まめまめ)部会では「しっかり朝食・ちょびっと減塩」をテーマに各種啓発活動を実施</p> <p>○隠岐圏域の健康課題として「脳卒中」の発症予防・重症化予防を掲げ、生活習慣改善・生活習慣病予防を意識した取組を実施。高血圧・糖尿病の有病者が多く減塩・運動・適正飲酒・禁煙・疾患の適性管理を健康長寿しまね推進会議等で啓発。</p> <p>○働き盛りの健康づくりを推進するため、事業所訪問で健診受診勧奨、保健指導を実施。</p> |

2. 脳卒中の診断・治療

| | |
|----|--|
| 松江 | <p>○歯科保健事業の取組として、誤嚥性肺炎予防活動にそれぞれの機関で取り組んでいる。</p> <p>○松江市三師会が作成した「誤嚥性肺炎予防マニュアル」を歯科分科会でも共有した。</p> |
| 出雲 | <p>○高度脳卒中センターを設置した(島根大学医学部附属病院)。</p> |

| | |
|----|---|
| 浜田 | ○脳卒中チームを立ち上げ、脳卒中専用病床を整備しており、運用を継続している。また、新たに血栓回収や頸動脈ステント留置を開始した。（浜田医療センター） ○周術期等の口腔機能の管理。（浜田江津歯科医師会） |
| 益田 | ○消防本部における、益田地区救急業務連絡協議会（メディカルコントロール部会）において検討されている。 |

3. 脳卒中医療連携体制

| | |
|----|---|
| 松江 | ○松江圏域失語症友の会（だんだんトークの会）への支援 ・毎月開催されるサロンへの参加 ・病院と連携し、入院・リハビリ中の患者とその家族とだんだんトークの会との交流会の開催 （今年度は、新型コロナウイルス感染症対策により、交流会は中止） |
| 出雲 | ○脳卒中予防対策検討会議を書面開催。 |
| 浜田 | ○地域医療連携室を中心に地域の医師会や医療機関と連携して地域医療ネットワークを整備し、地域の患者様が安心して継続的医療を受けられるようサービスの向上を図っている。また、在宅や施設への退院、他の医療機関への転院など退院に伴う支援を行っている。（浜田医療センター） ○当院では脳卒中治療について、浜田医療センター（t-PAによる血栓溶解療法、脳出血の手術、脳動脈瘤クリッピング等を実施）と連携し、主に救急からの二次医療、並びに回復期のリハビリテーションを実施しています。（済生会江津総合病院） |

心筋梗塞等の心血管疾患

R02年度中の取組み状況（各圏域）

1. 心筋梗塞等の心血管疾患の予防（発症予防、早期発見）、重症化防止の推進

| | |
|----|---|
| 松江 | <p>○心筋梗塞等の心血管疾患の一次予防として、たばこ・アルコール、運動、栄養等生活習慣の改善について松江圏域健康長寿しまね推進事業により啓発。</p> <p>○松江圏域健康長寿しまね推進事業歯科分科会および歯科保健事業でかかりつけ歯科医をもつよう啓発。</p> |
| 雲南 | <p>○AIを活用した特定健康診査未受診者対策の実施（奥出雲町、飯南町）</p> |
| 出雲 | <p>○健康長寿推進会議の「たばこ・アルコール」「食生活」「運動」「こころ」「歯科」の分科会を中心に、メタボリックシンドロームや高血圧等を予防する生活習慣について啓発。</p> <p>○商工会議所報、JA広報誌により歯周病予防、歯科受診の必要性について啓発実施。</p> <p>○改正健康増進法の全面施行により、受動喫煙防止義務違反事例について改善に向けて確認、助言等を実施。</p> |
| 県央 | <p>○「日本高血圧の日」にあわせた啓発の実施（各市町へ音声告知放送・データ放送を依頼）</p> <p>○心疾患の一次予防について、健康長寿しまねの推進やしまね健康寿命延伸プロジェクト事業の取組と併せて実施</p> <p>○事業所等への出前講座の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「減塩・禁煙・運動」の内容で事業所等にて健康教育を実施。 <p>○管内病院へのヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健医療計画中間見直しに向けて、心疾患対策の取組みについてヒアリングを実施 <p>○脳卒中対策調整会議の開催（3/12予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域内各病院・各市町の脳卒中及び心疾患対策の取組等の情報共有、意見交換を実施 |
| 浜田 | <p>○医師、看護師、栄養士、行政等の多職種連携で、心血管疾患予防を考えるフォーラムの開催予定が新型コロナウイルス感染防止のため中止。（江津市医師会）</p> <p>○特定健診、特定保健指導の実施。血圧等の検査値高値で、かつ未治療者に対し、受診勧奨を実施。（浜田市）</p> <p>○検診受診率並びに保健指導率の向上に向けた取組み強化（全国健康保険協会）</p> <p>○周術期等の口腔機能の管理。（浜田江津歯科医師会）</p> <p>○圏域健康長寿しまね推進会議各部会において、減塩・野菜摂取に関する啓発を実施。（減塩、野菜レシピ等の配架:キヌヤプリル ダップス本店 ゆめタウン江津）</p> <p>（保健所）</p> <p>○飲食店において野菜がとれる減塩のメニューの提供：鍾馗めしプロジェクト</p> <p>（保健所）</p> <p>○保健所内待合ロビーに血圧計を設置し、家庭血圧の測定および血圧の適正管理を推進。（保健所）</p> <p>○浜田圏域地域・職域連携推進協議会において、壮年期の脳血管疾患の実態について各種データを基に情報共有を実施。疾病予防および基礎疾患管理について啓発が必要であることを共通理解とし取組を推進している。（保健所）</p> <p>○「健康をとどけたい《プラス1》ファイル」（作成：浜田圏域健康長寿しまね推進会議）に、各種チラシ等を掲載。（保健所）</p> <p>○特定健診からハイリスク者を抽出し、受診勧奨および重症化予防指導の実施。循環器疾患発症予防及び重症化予防に向けた集団及び個別指導、広報活動を実施。【江津市】</p> <p>○成人病リスクの高い方に対し、栄養指導を実施（予防対策）</p> <p>（西部島根医療福祉センター）</p> <p>○人間ドックのオプションとして動脈硬化検診や頸動脈超音波検診を実施している。なお、新たに心臓ドックの開始を計画したが、人員配置等で実施に至らなかった。</p> <p>（浜田医療センター）</p> <p>○心不全看護外来、高血圧予防外来を実施し、慢性心不全や高血圧の予防、重症化予防に努めています。（済生会江津総合病院）</p> |

| | |
|----|---|
| 益田 | ○心疾患予防のための生活習慣の改善について、益田圏域健康長寿しまね推進会議を中心に啓発している。 |
| 隠岐 | ○コロナ禍で各種会議の延期中止が続く中で、隠岐圏域健康長寿しまね推進会議として、まめなおき通信臨時号を発行し、コロナ太り解消を意識した運動・適正飲酒・食生活改善等を働きかけた。 ○圏域健康長寿しまね推進会議栄養・食生活・歯科保健（まめまめ）部会では「しっかり朝食・ちょびっと減塩」をテーマに各種啓発活動を実施 |

2. 病院前救護体制の確立

| | |
|----|--|
| 益田 | ○消防本部における、益田地区救急業務連絡協議会（メディカルコントロール部会）において検討されている。 |
|----|--|

3. 心筋梗塞等の心血管疾患の診断・治療

| | |
|----|---|
| 浜田 | ○心筋梗塞治療として、血栓溶解療法や冠動脈造影検査に続く経皮的冠動脈インターベンション（PCI）を実施しており、心血管疾患に係る救急医療を担う医療機関としての役割を担っています。（済生会江津総合病院） ○積極的にカテーテル治療や緊急の心臓カテーテル検査・治療を行っている。また、心臓リハビリテーション指導士を配置しており、島根県西部で心臓リハビリテーションが受けられるの唯一の施設として治療を行っている。（浜田医療センター） |
| 益田 | ○益田赤十字病院の循環器内科において令和元年度から心不全外来を開始。 |

糖尿病

R02年度中の取組み状況（各圏域）

1. 糖尿病予防（発症予防、早期発見）の推進

| | |
|----|--|
| 松江 | ○「松江地域糖尿病対策会議」や「安来市糖尿病管理協議会」に参画し、一次予防から重症化予防までの取組を関係機関と連携して行った。 |
| 出雲 | ○健康長寿しまね推進会議構成団体と共に、「たばこ・アルコール」「食生活」「運動」「こころ」「歯科」の各分科会を中心に健康づくりの啓発活動を実施。 ○改正健康増進法の全面施行により、受動喫煙防止義務違反事例について改善に向けて確認、助言等を実施 ○毎月発行される商工会やJAの広報紙に生活習慣改善のための啓発記事を掲載 ○特定健診の分析結果を、各種会議において関係機関と共有 ○市において、特定健診・保健指導の受診勧奨実施 ○市においてすこやかライフ健康相談を毎月実施し食生活や運動についての個別相談に対応 |
| 県央 | ○糖尿病の一次予防について、健康長寿しまねの推進やしまね健康寿命延伸プロジェクト事業の取組と併せて実施 ○事業所等への出前講座の実施 ・「減塩・禁煙・運動」の内容で事業所等にて健康教育を実施。 ○各市町病院に対して糖尿病対策の実態把握をするためヒアリング実施 大田市7/21 川本町12/11 美郷町3/1 邑南町7/8 大田市立病院1/20 邑智病院1月 加藤病院1月 ○保健所、市町担当者の連絡会で圏域の課題や各市町の取組等の情報共有、意見交換を実施(2/5) ○健康相談の場で、生活習慣に応じた保健指導を実施。 ○各市町では糖尿病対策フローを作成し、糖尿病連携手帳等を活用して、医療機関との連携を図っている。 |
| 浜田 | ○医師、看護師、薬剤師、行政等の多職種連携で、糖尿病重症化予防を考えるフォーラムの開催予定が新型コロナウイルス感染症防止のため中止（江津市医師会） ○検診受診率並びに保健指導率の向上に向けた取り組み強化（全国健康保険協会） ○浜田圏域健康長寿しまね推進会議活動として、健康な食及び運動の推進を実施した。（保健所） ○各市においては、診療所からの紹介による個別栄養指導、保健指導を実施し、早い段階で生活習慣に応じた指導が受けられる体制を整えている。（保健所） ○特定健診からハイリスク者を抽出し、受診勧奨及び重症化予防指導の実施。【江津市】 ○成人病リスクの高い方に対し、栄養指導を実施（予防対策）（西部島根医療福祉センター） ○人間ドックの検査内容の中で糖尿病検査も実施し、早期発見に努めている。（浜田医療センター） |
| 益田 | ○生活習慣については健康長寿しまね推進会議の活動を中心に取組を推進している ○益田圏域の特定健診受診率（市町国保）は増加している。 （R1速報値 益田市:52.1% 和野町:50.9%、吉賀町:55.2%） ○世界糖尿病デーイベントin益田や益田地域糖尿病支援ネットワークは、コロナ禍の影響により開催されず。 |
| 隠岐 | ○隠岐圏域健康長寿しまねの取組として、食生活改善・運動推進・疾患の適性管理等を展開。 ○各町村の糖尿病対策の推進に向けて、データ等の情報提供・会議の参加。 |

2. 糖尿病の診断・治療水準の向上

| | |
|----|--|
| 出雲 | ○出雲圏域糖尿病予防対策検討会を開催し、病診連携体制（「出雲圏域糖尿病療養支援における市との連絡及び診診・病診連携体制」）を確認 |
|----|--|

| | |
|----|---|
| 浜田 | <ul style="list-style-type: none"> ○「浜田圏域糖尿病管理のしおり」を作成、随時更新し、治療や生活指導に活かしている。（保健所） ○浜田市においては、糖尿病腎症重症化予防に係るスタッフの研修会を、NPO法人島根糖尿病療養支援機構の協力のもと、開催された。（保健所） ○総合診療科で主として糖尿病を担当していた医師が退職したため、後任医師を確保するため大学と協議し、令和3年度より内分泌代謝内科の医師1名を採用予定となった。（浜田医療センター） ○専門の常勤医が不在の中、非常勤医師のみで現行の医療提供体制を維持しています。（済生会江津総合病院） |
| 益田 | <ul style="list-style-type: none"> ○益田圏域版の糖尿病予防システム（空腹時血糖110以上125以下、HbA1c6.0以上6.4以下は、糖負荷試験の実施）をH21年度から実施している。 |
| 隠岐 | <ul style="list-style-type: none"> ○隠岐の島町糖尿病委員会に、島根県糖尿病協会の糖尿病対策委員会委員長（松江日赤佐藤医師）を招き、対策の助言を受けて展開している。また、委員会主催の隠岐糖尿病スタッフ研修会を実施し、松江日赤における糖尿病治療や外来療養指導の実際について学んだ。 |

3. 糖尿病による合併症予防の推進

| | |
|----|---|
| 松江 | <ul style="list-style-type: none"> ○松江地域糖尿病対策会議における腎症重症化予防委員会への参画および世界腎臓病デーの啓発実施（マールテレビ：松江市広報番組） ○国保ヘルスアップ支援事業（糖尿病腎症等重症化予防事業）において、松江市、安来市の活動支援。 ○松江地域糖尿病対策会議は松江市歯科医師会から、安来市糖尿病管理協議会には安来市歯科医師会、安来地区歯科衛生士会から委員が参画、連携を推進している。 ○安来市糖尿病管理協議会における「糖尿病患者登録システム」の評価、今後の運用についての支援。 ○松江市における「国保特定健診CKDフォロー体制」及び「糖尿病性腎症保健指導」の見直しへの支援。 |
| 雲南 | <ul style="list-style-type: none"> ○糖尿病性腎症重症化予防プログラムの運用（各市町） ○糖尿病は雲南糖尿病の会にて医師、介護、看護、行政一体となって熱心に行っている（大原、飯石、奥出雲の3ブロック）（雲南医師会） |
| 出雲 | <ul style="list-style-type: none"> ○出雲圏域糖尿病予防対策検討会を開催し、病診連携体制（「出雲圏域糖尿病療養支援における市との連絡及び診診・病診連携体制」）を確認 ○出雲圏域糖尿病予防対策検討会を開催し、医科歯科薬科連携について情報交換・意見交換を実施 ○出雲圏域糖尿病予防対策検討会を開催し、糖尿病性腎症発症防止の取組について検討 ○市において、国保特定健康診査受診者を対象にかかりつけ医と腎臓専門医の連携強化と市における保健指導の実施 ○市において糖尿病の治療中断の可能性がある人に対して医療機関へ受診勧奨を実施。また医療機関と連携し、血糖コントロールや合併症予防のための保健指導を実施。 |
| 県央 | <ul style="list-style-type: none"> ○保健所、市町担当者の連絡会で圏域の課題や各市町の取組等の情報共有、意見交換を実施(2/5) ○市町ごとに連絡会等を開催し、今後の対策について検討をおこなった。 ○各市町では、腎症の発生予防・重症化防止に向けた取組を始めている。 ○生活習慣病予防の出前講座において糖尿病予防及び重症化予防の食に関わる講話を実施。（6/26, 1/12, 1/15） ○糖尿病重症化予防等の啓発媒体を健康増進課が出かける支援の場において配布。 |

| | |
|----|--|
| 浜田 | <p>○広報活動。【江津市】</p> <p>○他科の医師と連携して合併症予防に努めている。【浜田医療センター】</p> <p>○フットケア外来を開催し、足のトラブル予防に努めています。（済生会江津総合病院）</p> <p>○「浜田圏域糖尿病管理のしおり」により、適正管理のための連絡体制（医療機関間、医療機関から行政の栄養相談への紹介等）を共有したり、社会資源に関する情報提供を行い、各機関の連携を推進した。（保健所）</p> <p>○糖尿病の医科歯科薬科連携体制強化事業における事業説明及び勉強会。（浜田江津歯科医師会）</p> <p>○浜田圏域糖尿病対策推進会議構成団体として歯科医師会も参画してもらっており、「糖尿病管理のしおり」でも、圏域版診療情報提供書（医科⇄歯科）による医科歯科連携を推進している。（保健所）</p> <p>○歯科医師会においては、「糖尿病の医科歯科薬科連携推進体制強化事業」の浜田圏域での実施に向けた説明会を開催した。（保健所）</p> <p>○糖尿病性腎症重症化予防事業の継続実施。糖尿病相談を実施。保健従事者のスキルアップのための研修会を開催。（浜田市）</p> <p>○糖尿病性腎症重症化予防の個別指導。【江津市】</p> <p>○糖尿病性腎症に関わる重症化予防事業の実施。（全国健康保険協会）</p> <p>○各市においては、糖尿病腎症重症化予防に積極的に取り組んでおり、市独自でスタッフ向けの研修会を開催したり、医師会との協議の場を持ちながら、早期の糖尿病腎症に対する食事指導、生活指導に対応できる体制を整えている。（保健所）</p> <p>○浜田市、江津市では、電話や訪問等による定期的な受診勧奨、受診確認を実施している。（保健所）</p> <p>○過去5年間で治療中断者に対して受診勧奨を実施。【江津市】</p> <p>○県で作成した啓発媒体は必要に応じて配布。（保健所）</p> |
| 益田 | <p>○世界糖尿病デーイベント in 益田は、コロナ禍の影響により開催されず。</p> <p>○一般診療所から糖尿病専門医（内科医・眼科医・歯科医）への紹介基準を、糖尿病連携ファイルを通じて周知し、情報を毎年更新している。</p> <p>○糖尿病性腎症重症化予防については圏域内の全市町で取り組んでいる。</p> |
| 隠岐 | <p>○「隠岐の島町糖尿病委員会」に事務局として参画。重症化防止の取組強化を図るとともに、予防に向けた住民啓発を行っている。</p> <p>○隠岐の島町糖尿病委員会」の中で今年度は、実態把握のために各種調査を実施中。（①糖尿病患者調査及び生活習慣等に関するアンケート、②医療機関への聞き取り調査、③透析患者の実態調査）また、保健と医療が連携した重症化防止に向けた取組を図っている。（CKDフローとそれに係る様式検討、患者へのフォローアップ体制等）</p> |

4. 患者支援

| | |
|----|--|
| 出雲 | ○圏域内の糖尿病友の会（6か所）の活動状況をとりとまとめ、資料を作成し共有 |
| 県央 | ○圏域には6つの「糖尿病友の会」がある（病院・開業医3か所、地域3か所） |
| 浜田 | <p>○地域友の会については、各市（浜田市については支所）が事務局となり、患者や家族以外の糖尿病予備群や糖尿病に関心のある人も対象に含め、定期的な学習の場を提供している。（保健所）</p> <p>○糖尿病患者会活動支援。【江津市】</p> <p>○糖尿病教室が今年度は新型コロナの影響等で開催できていない。【浜田医療センター】</p> <p>○糖尿病友の会（なでしこの会）を年数回開催し、糖尿病患者の療養指導の充実や合併症予防・重症化予防に取り組んでいます。（済生会江津総合病院）</p> |

精神疾患

R02年度中の取組み状況（各圏域）

1. 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築

| | |
|----|--|
| 松江 | <p>○地域の助け合い、教育（普及・啓発）を担う意欲のある精神保健ボランティアに対し活動ニーズの把握、活動支援を行った。</p> <p>○ピアサポーターフォローアップ研修を企画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止とした。</p> <p>○医療機関、相談支援事業所、訪問看護等と長期入院者の退院支援、地域定着の支援を行った。</p> <p>○松江市、安来市で開催される協議の場や総合支援協議会等において、地域資源の現状把握、支援体制充実にに向けた情報共有、連携強化を図った。</p> <p>○ピアサポーターフォローアップ研修を企画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止とした。</p> <p>○院内にピアサポーターが入ることも難しい1年だった。</p> |
| 雲南 | <p>○奥出雲町精神障害者家族会サロンの開催、当事者への支援（奥出雲町）</p> <p>○医師・心理士による外部カウンセリング支援への協力（奥出雲コスモ病院）</p> |
| 出雲 | <p>○保健・医療・福祉関係職種に呼びかけ「心の健康づくり取り組み隊」へ登録いただいた講師及び保健所職員による、心の健康出前講座を実施し、精神疾患に対する正しい地域の普及を実施。（R3年1月末6回290人）</p> <p>○出雲圏域健康長寿しまね推進会議こころの分科会活動で、“心の健康を理解しよう” “ストレスと上手につきあう”をテーマに地域の広報誌を通じた啓発を行った。新型コロナウイルス感染症の影響により各種イベントが中止となり、多数の住民への啓発は実施出来なかつたが、市の協力のもと、斐川地区文化祭でのチラシの配架等の啓発活動を実施。</p> <p>○出雲市の支所（6カ所）及び保健所で心の健康相談を実施し、身近な場所で相談が実施体制を確保し、医療が必要な人への早期支援を実施。</p> <p>○心の健康相談（お酒の困りごと相談を含む）チラシ及びポスター作成し、相談日及び圏域内の精神科医療機関及び相談機関を関係機関へ周知。</p> <p>○出雲地域精神保健福祉協議会に「医療の連携と在宅支援に関する部会（出雲地域精神障がい者地域移行・地域定着圏域会議を兼ねる）を位置づけ、圏域の課題を共有（R2.7.30、R3.2.19）。特にR1年度に実施した長期入院患者の実態調査、精神科病院・相談支援事業所の状況調査結果を踏まえた地域包括ケアシステム構築に向けた取組を検討。</p> <p>○出雲市は協議の場を出雲市施策推進協議会に位置づけ、「医療の連携と在宅支援に関する部会」と「出雲市施策推進協議会と連携し協議。</p> <p>○国のガイドラインに基づき、措置入院患者の退院支援を実施。</p> <p>○医療と地域との連携を目的とし、出雲圏域の3病院において精神障がい者地域移行・地域定着支援事業研修会および治療と地域職員の交流実習を実施。</p> <p>○ピアサポーター活動について関係者から意見聴取し、活動内容を検討。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実働はなし。</p> <p>○精神保健所包括支援会議を開催（2ヶ月1回）し、多機関・多職種による処遇困難事例のカンファレンスを行い、個別支援のバックアップ及び支援体制に関わる検討を実施。</p> <p>○出雲市で第6期出雲市障がい福祉計画策定に向け、出雲市障がい施策推進協議会及びじりつ専門部会で地域生活支援拠点等について検討。</p> |
| 県央 | <p>○大田圏域精神保健医療福祉連絡協議会及び精神障がい者地域生活移行・地域定着支援圏域会議を開催（2/15）</p> <p>○関係者等へ研修会等を実施</p> <p>○ピアサポーターフォローアップとして、グループ活動支援を実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止とした。</p> <p>○市町自立支援協議会へ参画している。</p> |

| | |
|----|---|
| 浜田 | <p>○こころの健康づくり講演会を通じて、見守り体制の充実を図るとともに啓発事業を実施。学校への講師も派遣した。（浜田市）</p> <p>○心の健康づくりに関する健康教育や個別相談。精神科疾患患者のケース対応。</p> <p>【江津市】</p> <p>○メンタルヘルスの出前講座や自死予防週間に相談窓口の周知を行った。（保健所）</p> <p>○浜田圏域自立支援協議会に精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築ワーキングを設置し、関係者で地域包括ケアシステム構築に向けて検討を行い、圏域の課題について整理を行った。（保健所）</p> <p>○自立支援ボランティア活用事業により、精神障がい者の地域生活の支援を行った。（保健所）</p> <p>○ピアサポーター養成講座開催に向けて相談支援事業所等と検討を行った。（保健所）</p> <p>○「ストレスチェック制度」導入に伴い、職域健診実施に併せて、検診を受けていただけるよう努めた。（環境保健公社）</p> <p>○精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築ワーキングに参加。（西部島根医療福祉センター）</p> <p>○常勤の精神科医が配置されていないため対応が出来ていない。そのため医師確保に向け大学と協議を行っているが採用には至っていない。（浜田医療センター）</p> <p>○精神科に係る常勤医は不在ですが、非常勤医師による週1回の外来診療機能を維持しています。（済生会江津総合病院）</p> <p>○こころの健康づくりネットワーク会議や、浜田市自死対策連絡会を立ち上げ、市内の関係団体との連携に努める。（浜田市）</p> |
| 益田 | <p>○精神疾患の正しい知識の普及について、H30年度より「心の輪を広げ隊（普及啓発を行う当事者組織）」を保健所で立ち上げ、より身近なところで精神障がい者からの体験発表と保健師による専門知識の講演を行っている。</p> <p>○地域移行支援・地域定着支援事業 圏域会議を開催し、関係機関による退院支援や退院意欲喚起等について検討を行っている。</p> <p>○精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築や精神障がいの特性を理解し対応できる関係者を増やすため従事者研修会を開催した。</p> <p>○益田市においては、平成30年度から県のモデル事業として「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組」を開始。令和元年度精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの協議の場が設置された。</p> <p>○津和野町（令和元年度）では協議の場が設置され、吉賀町においても協議の場の設置に向けて検討されつつある。</p> |
| 隠岐 | <p>○コロナの感染予防の観点で「隠岐圏域精神障がい者地域生活移行・地域定着支援会議」を中止。ケース支援の中で行政・病院・関係施設と連携している。</p> <p>○町村の自立支援協議会・地域ケア会議等に参加し、町村の具体的な取り組みに向けた支援を継続。</p> <p>○隠岐地域の精神科医療体制の確保に向け、関係機関との情報交換・連絡会を実施。</p> |

2. 多様な精神疾患等に対応できる医療連携体制の構築

(1) 各世代に対応した心の健康づくり

| | |
|----|--|
| 松江 | <p>○コロナ禍における心の健康づくりについて、健康長寿しまね推進会議心の分科会で啓発した。</p> <p>○定期、定期外相談の実施</p> |
|----|--|

| | |
|----|---|
| 出雲 | <p>○保健・医療・福祉関係職種に呼びかけ「心の健康づくり取り組み隊」へ登録いただいた講師及び保健所職員による心の健康出前講座を実施し、精神疾患に対する正しい地域の普及を実施。(R3年1月末6回290人)</p> <p>○出雲圏域健康長寿しまね推進会議こころの分科会活動で、“心の健康を理解しよう” “ストレスと上手につきあう”をテーマに地域の広報誌を通じた啓発を行った。新型コロナウイルス感染症の影響により各種イベントが中止となり、多数の住民への啓発は実施出来なかったが、市の協力のもと、地区文化祭でのチラシの配架等の啓発活動を実施。</p> <p>○心の健康相談(お酒の困りごと相談を含む)チラシ及びポスター作成し、相談日及び圏域内の精神科医療機関及び相談機関を関係機関へ周知。</p> <p>○圏域健康長寿しまね推進会議心の分科会と自死総合対策に関する部会(出雲圏域自死総合対策連絡会を兼)が連携し、自死予防週間では高校(1か所)へのチラシ等の配布、自死予防対策強化月間では、圏域健康長寿しまね推進会議構成員の協力を得たチラシ等の配布。</p> <p>○自死部会と連携し、心の不調への気づきを促すリーフレットを作成し、関係機関を通じて配布。</p> <p>○出雲市の支所(6カ所)及び保健所で心の健康相談を実施し、身近な場所で相談が実施体制を確保し、医療が必要な人への早期支援を実施。</p> |
| 県央 | <p>○大田圏域健康長寿しまね推進会議の心ゆたかにチャレンジ部会で普及啓発を実施</p> <p>○こころの健康相談(所内・巡回相談)や思春期のこころの健康相談等や訪問や電話等による相談を随時実施</p> <p>(こころの健康相談及び思春期のこころの健康相談は新型コロナウイルス感染症の影響のため4~6月は中止。)</p> |
| 浜田 | <p>○メンタルヘルス出前講座により、精神疾患に関する正しい知識の普及啓発と相談窓口の周知を実施。(保健所)</p> <p>○心の健康相談やケース対応等により、関係機関と連携し、精神疾患等の早期発見・早期対応につながるよう対応を行っている。(保健所)</p> |
| 益田 | <p>○関係機関の窓口、各種会議・研修会でストレスチェック表・相談機関一覧表を配布し周知を行った。</p> <p>○自死予防週間、自死対策強化月間において、市町にハートメガフォンのケーブルテレビ放送を依頼し、啓発を図った。また、各市町の広報等やスーパーへの啓発を行った。</p> <p>○関係機関・相談機関を訪問し、コロナ禍における現状や課題を把握すると同時に、相互の事業や役割を再確認することで連携を深めた。</p> |
| 隠岐 | <p>○住民向けに各種相談窓口の周知を図る目的で「隠岐圏域こころの健康ホットライン」を作成し配布。また健康長寿しまね推進会議や事業所訪問等でも配布。</p> <p>○町村と協働し「ゲートキーパー養成研修」を実施</p> <p>○新型コロナのためオンラインでの相談(年2回)を実施。スムーズで効率的に相談ができた。</p> |

(2)各疾患に対応した医療提供体制の構築

ア. 統合失調症

| | |
|----|--|
| 松江 | <p>○退院後に訪問看護導入となるケースも多くある。地域で暮らす精神障がい者を支える仕組みづくりについて検討を深めることを目的として、年度内に精神科訪問看護従事者に対しアンケートを行う。</p> <p>○措置入院者の退院後支援を通じ、院内多職種との連携を図り、退院後の安定した生活のための支援につなげている。</p> |
|----|--|

| | |
|----|---|
| 出雲 | <p>○出雲地域精神保健福祉協議会に「医療の連携と在宅支援に関する部会（出雲地域精神障がい者地域移行・地域定着圏域会議を兼ねる）を位置づけ、圏域の課題を共有（R2.7.30、R3.2.19）。特にR1年度に実施した長期入院患者の実態調査、精神科病院・相談支援事業所の状況調査結果を踏まえた地域包括ケアシステム構築に向けた取組を検討。</p> <p>○医療と地域との連携を目的とし、出雲圏域の3病院において精神障がい者地域移行・地域定着支援事業研修会および医療と地域職員の交流実習を実施。</p> <p>○出雲圏域精神保健包括支援会議を開催（2ヶ月1回）し、多機関・多職種による処遇困難事例のカンファレンスを行い、個別支援のバックアップ及び支援体制に関わる検討を実施。個別支援を通じて見えた地域課題を「医療の連携と在宅支援に関する部会」においても共有・検討。</p> <p>○入院中に開催される支援会議に、相談支援事業所、行政保健師、訪問看護師などが参加し、地域生活への円滑な移行を支援。</p> |
| 県央 | <p>○大田圏域精神保健医療福祉連絡協議会及び精神障がい者地域生活移行・地域定着支援圏域会議を開催（2/15）</p> <p>○関係者等へ研修会等の実施</p> <p>○ピアサポーターフォローアップとして、グループ活動支援を実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止とした。</p> <p>○市町自立支援協議会への参画</p> |
| 浜田 | <p>○次年度からより効果的に事例検討を行い、地域での支援をすすめていくために、治療継続支援にかかる検討会の見直しを行った。（保健所）</p> <p>○浜田圏域自立支援協議会に精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築ワーキングを設置し、関係者で地域包括ケアシステム構築に向けて検討を行い、圏域の課題について整理を行った。（保健所）</p> |
| 益田 | ○地域移行支援・地域定着支援事業 圏域会議の中で検討している。 |

イ. うつ病・躁うつ病

| | |
|----|--|
| 松江 | <p>○専修学校1校に対し出前講座を開催する予定であったが新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため開催できず。</p> <p>○圏域内8つの専修学校に対し、県パンフレット等を配布し、自己チェックの促し、相談先周知を図った。</p> <p>○松江圏域健康長寿しまね推進会議心の分科会、くにびき学園において、コロナ禍における心の健康づくりについて情報発信を行った。</p> <p>○保健所ホームページを活用し、松江市、安来市の相談窓口を周知。</p> <p>○事業所等での出前講座において事業所等での出前講座において、ストレスに対するセルフケア、ストレスチェック、うつ病とその予防、相談先等について説明を行った。</p> <p>○松江圏域働きざかりの健康づくり推進連絡会において、松江圏域職場の健康づくりのためのアクションプランの取組として、メンタルヘルス対策を1つの柱に掲げ、関係機関との連携を図り、取組をすすめている。</p> |
| 雲南 | ○子育て包括支援センター立ち上げによる妊産婦のメンタルヘルスについての支援、虐待の早期発見、支援（飯南町） |

| | |
|----|---|
| 出雲 | <p>○保健・医療・福祉関係職種に呼びかけ「心の健康づくり取り組み隊」へ登録いただいた講師及び保健所職員による心の健康出前講座を実施し、精神疾患に対する正しい地域の普及を実施。(R3年1月末6回290人)</p> <p>○出前講座時にうつ病に関する〇×クイズ・アンケート、職域においてはストレスチェックを加えて実施し、ストレスチェックの結果返信時にセルフケア情報を提供。</p> <p>○若年者、職域への啓発を強化することとし、トリニティカレッジ(学生48名 R2.11.11)、島根大学看護学科(1年生60名 R3.1.7)、出雲市庁内連絡会(職員28名 R3.1.20)を対象にゲートキーパー養成研修を実施。</p> <p>○出雲圏域健康長寿しまね推進会議こころの分科会活動で、“心の健康を理解しよう” “ストレスと上手につきあう”をテーマに地域の広報誌を通じた啓発を行った。新型コロナウイルス感染症の影響により各種イベントが中止となり、多数の住民への啓発は実施出来なかったが、出雲市の協力のもと、斐川地区文化祭でのチラシの配架等の啓発活動を実施。</p> <p>○出雲市の支所(6カ所)及び保健所で心の健康相談を実施し、身近な場所で相談が実施体制を確保し、医療が必要な人への早期支援を実施。</p> <p>○心の健康相談(お酒の困りごと相談を含む)チラシ及びポスター作成し、相談日及び圏域内の精神科医療機関及び相談機関を関係機関へ周知。</p> <p>○一般診療科医の精神疾患対応力向上を図るとも精神科医療機関との連携強化を目的に、かかりつけ医のための精神疾患研修会を医師会と連携して開催(R2.10.8)。</p> |
| 県央 | <p>○行政職員を対象にゲートキーパー養成研修を開催(2回)</p> <p>○相談機関の周知及びストレスチェック表の普及を図った</p> <p>○妊産婦期における産後うつ等のメンタルヘルスの不調を早期発見・対応するため質問票を産婦人科医療機関や市町で活用し、早期から関係機関が連携し対応している</p> |
| 浜田 | <p>○9月の自死予防週間を中心に、うつ病、自死予防、相談連絡先などを記載したパンフレットを関係機関の協力を得て配布することで、地域に対する普及啓発活動を実施した。(保健所)</p> <p>○浜田圏域地域・職域連携推進協議会においてゲートキーパー養成講座について周知した。(保健所)</p> <p>○浜田圏域自死総合対策連絡会において、一般診療科病院及び精神科病院も含め、自死を中心としたメンタルヘルス対策について検討した。(保健所)</p> |
| 益田 | <p>○自死予防週間で市町及び関係機関にストレスチェック表・相談機関一覧表を配布し周知を行った。また、各市町の広報でも啓発を行った。</p> <p>○研修会等の場でうつ病啓発用パンフレットを配布し啓発を行った。</p> <p>○益田日赤と松ヶ丘病院が連携し、精神科受診中の妊婦の産前、産後のフォローを行うことにより、対象妊婦の支援だけでなく、産婦人科と精神科の連携が強化されている。</p> |
| 隠岐 | <p>○町村と協働し「ゲートキーパー養成研修」を実施(島前)</p> <p>○「隠岐圏域こころの健康ホットライン」の配布・周知</p> <p>○病院・町村において、「EPDS」等の3種の質問票を活用し、産後うつスクリーニングを行い、関係者で連携し支援を継続。</p> |

ウ. 児童・思春期精神疾患、発達障がい

| | |
|----|---|
| 松江 | <p>○本人や家族、教員、警察、児童相談所等からの相談に対し、心の健康相談日の利用や所内で随時相談対応した。</p> <p>○子どもの心の診療ネットワークにおける大きな課題はないと整理し、今年度会議は開催しないが、圏域内診療所における思春期の受け入れ、対応状況について、年度内に整理し、必要な治療が受けられる体制にあるか再確認する。</p> <p>○医師中央派遣研修への医師の参加を調整したが新型コロナウイルス感染拡大の影響で研修会が中止となった。</p> <p>○母子保健推進会議にて、子どもの心の診療に対応できる医師が少ないとの意見があることを把握している。</p> |
|----|---|

| | |
|----|--|
| 出雲 | <p>○出雲市子ども・若者支援センター、出雲市教育委員会と連携し、子どもの心の健康相談を年4回実施。</p> <p>○出雲地域精神保健福祉協議会の部会に「出雲圏域子どもの心の診療ネットワーク会議」を位置づけ、各機関における支援と連携のあり方について協議(R2.9.10)。特に初診待機期間が長いという課題を受け、圏域内での新たな受診前アセスメントの取組について関係者で共有。</p> <p>○子どもの心の健康相談の周知、医療機関へのつなぎ方についての保護者向けリーフレットの配布(全小中学生の保護者及び関係機関)。</p> <p>○関係者向けの研修会として、関係者事例研修会(R2.10.20)及び子どもの心の研修会(R2.11.12)を開催。</p> <p>○出雲圏域子どもの心の診療ネットワーク会議と出雲医師会学校医部会との共催で、医師、教育機関、行政機関等を対象にした「子どもの心研修会」を開催し、新たな受診前アセスメント会議の取組について周知(R2.11.12)。</p> |
| 県央 | <p>○思春期こころの健康相談の実施(新型コロナウイルス感染症の影響のため、5月は中止)</p> <p>○圏域内の中学1年保護者全数に思春期のこころとからだに関する保健所作成リーフレットを配布</p> <p>○高校文化祭参加者に思春期チラシ、こころの健康相談チラシを配布</p> <p>○関係者のスキルアップを目的に思春期事例検討会(12/4)を実施</p> <p>○子どもの心に関する関係者研修会を3/19に実施予定</p> |
| 浜田 | <p>○平成30年度、支援機関等が各機関の取組を相互理解し情報の共有化を図ることを目的に作成した「浜田圏域子どもの心の支援機関情報一覧」の改訂にむけ調整を行っている。(保健所)</p> <p>○発達障害等、健診・治療・問題行動に対する研修を実施。</p> <p>相談窓口の設置。(西部島根医療福祉センター)</p> <p>○医療と教育の連携を図るため、研修会を開催した。(保健所)</p> |
| 益田 | <p>○県立こころの医療センターの協力を得て、子どもの心の相談を実施した。(今年度3回実施)</p> <p>○子どもの心の相談窓口一覧を更新した。</p> <p>○子どもの心の診療ネットワーク会議や従事者研修会を開催し、情報共有や資質の向上による連携体制づくりを検討している。今年度はコロナ禍の影響により、会議は書面にて開催。従事者研修会は、養護教諭に対し、意見交換を中心に実施した。</p> <p>○従事者研修会を開催し、ネットワークの構築を図るとともに事例検討も行いながら、従事者の資質の向上を図った。</p> <p>○圏域医師等を中央研修に派遣し、子どもの診療に対応できる医師を増やし、早期対応が図れるよう努めている。今年度はコロナ禍のため中央研修が中止となり派遣せず。</p> |
| 隠岐 | <p>○子どもの心の診療ネットワーク事業において、「思春期こころの健康相談」「事例検討会」を実施。</p> <p>○島後においては、ネットワーク会議で出た意見を参考に、関係者の周知を図るため「こころのこころの相談窓口一覧」を作成中。</p> |

エ. 依存症

| | |
|----|--|
| 松江 | <p>○専門医療機関及び断酒新生会の協力のもと、アルコール相談日を設け、本人、家族からの相談に応じている。相談日に都合が合わない家族に対しては、断酒会の協力のもと、定例外相談に応じた。</p> <p>○アルコール相談関係者会議を企画したが、悪天候のため中止した。</p> <p>○松江健康長寿しまね推進会議たばこアルコール分科会の取り組み(アルコール関連問題啓発週間における啓発活動、中学校への出前講座での正しい知識の普及)を支援した。</p> |
|----|--|

| | |
|----|---|
| 出雲 | <p>○島根県断酒新生会出雲支部の酒害相談員の協力により、お酒の困りごと相談を月1回開催。また、随時、相談希望者と酒害相談による相談を実施。</p> <p>○断酒会例会の会場を提供し（月1回）、活動を支援。</p> <p>○H30年度から出雲地域精神保健福祉協議会の委員として島根県断酒新生会出雲支部に加わってもらい、圏域内の課題として協議する体制とした。</p> <p>○保健所で受けたギャンブル依存症に関する相談は、心と体の相談センターを紹介し、支援につなげている。</p> |
| 県央 | <p>○こころの健康相談やアルコール依存症等を含む相談に対応した。</p> <p>○アルコール健康障がいを含む普及・啓発や相談窓口の周知を図った。</p> |
| 浜田 | <p>○断酒会への職員の参加及び会場貸出の実施（月1回程度）（保健所）</p> <p>○心の健康相談において、アルコール相談日を設けている（年度内3回程度）（保健所）</p> |
| 益田 | <p>○お酒の困りごと相談を告知放送やケーブルテレビで周知し、相談対応を行っている。</p> <p>○平成30年度松ヶ丘病院がギャンブル依存症等拠点医療機関に選定され、今年元年度は山陰初のGA益田グループが発足された。松ヶ丘病院におけるギャンブル依存症の取組やGA益田グループの周知、顔の見える関係づくりと対応技術の向上のため、益田圏域ギャンブル依存症研修会を開催してきたが、今年度は中止。</p> |
| 隠岐 | <p>○健康長寿しまね推進事業や事業所訪問等の取組で、適正飲酒等アルコール問題の予防について啓発を実施。</p> <p>○未成年者飲酒防止の観点で、希望する学校へ出張講座を実施。</p> <p>○島根県断酒新生会と心と体の相談センター、保健所と協働で、「アルコール関連問題地域セミナー」を実施。精神科病院におけるアルコール支援プログラムについて学んだ。</p> <p>○薬物乱用防止の観点で、希望する学校へ出張講座を実施。</p> |

オ. 高次脳機能障がい

| | |
|----|---|
| 松江 | ○地域支援拠点が開催する研修会への参加。 |
| 出雲 | ○拠点病院（エスポアール出雲クリニック）が、ネットワーク会議、研修会等を開催。 |
| 県央 | <p>○圏域支援拠点を中心に高次脳機能障害に対する理解を深めるために、普及・啓発や相談窓口の周知を図っている。</p> <p>○二次医療圏域のネットワーク会議の参画。</p> |
| 浜田 | ○島根県高次脳機能障がい者支援事業の圏域の相談支援を実施。年二回のネットワーク会議の開催や当事者と家族のための「家族の集い」を年4回開催。また、研修会や一般の方対象への周知啓発のための研修会を実施。（西部島根医療福祉センター） |
| 益田 | ○圏域会議については、第1回はコロナ禍のため書面会議とされた。第2回は開催予定。 |
| 隠岐 | ○隠岐圏域高次脳機能障がいネットワーク会議に参画。 |

キ. その他の疾患（不安障がい・PTSD・摂食障がい）

| | |
|----|----------------------|
| 松江 | ○相談対応し、必要時医療機関を紹介した。 |
|----|----------------------|

ク. 認知症

| | |
|----|---|
| 松江 | ○連携型認知症疾患医療センターを設置し、松江市や地域の関係者と会議を開催し連携体制の強化を図った。 |
| 雲南 | <p>○認知症疾患医療センターとしての事業の実施（奥出雲コスモ病院）</p> <p>○新型コロナウイルスの感染状況を注視し、感染防止策を徹底しながらコグニサイズ教室を開催（平成記念病院）</p> <p>○法人内において認知症サポーター養成研修のプログラムを完成させた。（雲南市社会福祉協議会）</p> <p>○出前講座の開催「認知症を学び地域で支えよう～認知症SPサポーターになろう」 開催回数20回 参加者数411人（雲南市社会福祉協議会）</p> |

| | |
|----|--|
| 出雲 | <p>○認知症サポート医と連携し、認知症対応力向上研修会の開催 歯科医師等対象（11/25） 薬剤師等対象（11/30）</p> <p>【成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ということもあり、事例検討はなくして講義のみの研修会として実施した。 ・歯科医師等対象の研修会には、例年に比べ、歯科衛生士の参加が多かった。 ・どちらの研修も「とてもわかりやすかった」と好評であった。 ・グループワーク、ロールプレイング、事例検討等で更に具体的な学びにつながると良い。 |
| 県央 | <p>○連携型認知症疾患医療センター（大田シルバークリニック）の協議会運営の支援を行った</p> <p>○こころの健康相談や保健師の随時相談で対応</p> <p>○認知症疾患医療センターと認知症サポート医の連携を目指し、サポート医への活動状況のヒアリングを予定。 （3月予定）</p> |
| 浜田 | <p>○R2. 11. 27浜田圏域認知症対応力向上研修（主催：認知症疾患医療センター 西川病院）の共催。（保健所）</p> <p>○浜田市認知症初期集中支援チーム会議への参画。（保健所）</p> <p>○認知症介護従事者向け研修会において、島根県や圏域の状況等について説明を実施。（保健所）</p> <p>○認知症疾患センターとしての機能向上を図る。小児精神疾患への対応力の向上を図った。就労・居住サポートへの入院環境・アメニティの向上をはかる改修工事。（西川病院）</p> <p>○県作成の啓発媒体を関係者に配布した。（保健所）</p> |
| 益田 | <p>○H27. 10月に松ヶ丘病院が地域型認知症疾患医療センターに指定され、連絡調整をしながら事業の円滑な推進を図っている。</p> <p>○圏域の認知症ネットワーク会議を年1回開催し、関係機関と認知症対策の取組状況、方向性を検討する場としているが、コロナ禍の影響により書面開催とした。</p> <p>○認知症サポート医連絡会もコロナ禍による影響により中止。 現在、圏域内養成のサポート医は12名。</p> <p>○サポート医の活動状況や今後の取組を把握し、地域とのネットワーク構築のため、新規サポート医に対しオンラインによる訪問を行った。</p> <p>○認知症支援医懇話会（研修会）もコロナ禍による影響により中止。</p> <p>○早期発見・早期相談につながるため、認知症チェックリストチラシの更新を行った。</p> <p>○アルツハイマーデーキャンペーンはコロナ禍の影響により開催されなかったが、家族の会によりスーパーへのポスター掲示やケーブルテレビへの啓発が行われた。併せて、チラシでの啓発をお願いした。</p> |
| 隠岐 | <p>○隠岐病院が「認知症疾患医療センター」を設置し稼働。研修会及び連絡会をセンターと共に企画運営実施。認知症専門外来を利用した後の受け皿（通いの場）が不足していること、免許返納後の通院等の移動支援が課題。連絡会等で課題解決に向け検討中。</p> <p>○地域サロンや町村の保健事業等で、「認知症疾患医療センター」の周知をチラシで実施。</p> <p>○認知症疾患医療センターと関係機関の連絡会を開催し、かかりつけ医の紹介の方法や医療センター受診後のサポート体制について検討。</p> |

3. 精神科医療体制等の整備

(1) 精神科救急医療体制

| | |
|----|--|
| 松江 | <p>○新型コロナウイルス感染症の院内発生による通院、入院医療提供体制への影響を防ぐため、指定病院、警察等から意見聴取し、措置診察対象者へのPCR検査体制等について検討した。</p> <p>○県外往来者、法26条対象者、思春期、急変者等で圏域内で治療や入院を調整するにあたり難航した事案があり、精神科救急情報センターが十分に機能しない場面があった。精神科救急医療体制整備圏域連絡調整会議の開催を検討中。</p> <p>○救急搬送時や救急外来において再度の未遂を防ぐための相談先周知のためのカードを配布。</p> <p>○圏域内での受診、調整が困難なケースについて、受け入れをお願いし、ケース会議等を通じ、松江圏域の医療体制について意見をいただいている。</p> |
|----|--|

| | |
|----|---|
| 出雲 | <p>○精神科救急医療体制整備出雲圏域連絡調整会議を開催（R2.10.1）し、精神科病院、消防、警察等と協議。緊急受診の際の情報共有のあり方について協議。</p> <p>○精神科救急空床確保業務当番病院に基づき、各月の当番病院において空床確保を確認。</p> <p>○夜間、休日にかかりつけ医療機関で対応出来ない場合、島根県精神科医救急情報センターが対応することを周知。</p> |
| 県央 | <p>○精神科救急情報センター機能として相談対応を実施。</p> <p>○精神科救急医療体制整備圏域連絡調整会議（11/9）を開催。</p> |
| 浜田 | <p>○精神科救急情報センター（平日日中）業務を引き続き実施した。（保健所）</p> |
| 益田 | <p>○精神科救急医療体制益田圏域連絡調整会議を開催し、迅速かつ適切な医療の確保、コロナ禍における精神科救急医療体制、自死対策等について関係機関と協議を行った。</p> <p>○H29年度の救急告示病院等を対象とした自死未遂者対応の調査結果を受け、圏域版心の相談先一覧表を令和元年度作成した。</p> <p>○市町の自死ネットワーク会議や未遂者支援対策会議へ参加し、自死や未遂者に対する支援の協議や情報交換を行った。</p> <p>○コロナ禍における精神科救急医療体制について検討を行った。</p> |
| 隠岐 | <p>○「隠岐圏域精神科医療救急医療体制整備連絡調整会議」を開催し、医療体制の確保等検討。</p> <p>○「隠岐圏域自死対策連絡会」を開催。また自死未遂者への支援を充実するため、島後で関係者連絡会を開催。警察が介入した事例の情報提供を受け、ケース支援につながった。</p> |

(2)一般診療科との連携体制

| | |
|----|---|
| 松江 | <p>○自死対策を検討するため、医療連携ワーキング開催予定</p> <p>○R2年10月、認知症疾患医療センター（連携型）が設置された。連絡協議会にて、今後の取り組みについて検討を行った。</p> <p>○松江市、安来市で開催する自死対策検討会等への出席。</p> <p>○救急搬送時や救急外来において再度の未遂を防ぐための相談先周知のためのカードを配布。</p> <p>○自死対策に係る人材の資質向上を目的に、松江市、安来市保健師等を対象に研修を行った。</p> |
| 出雲 | <p>○一般診療科医の精神疾患対応力向上を図るととも精神科医療機関との連携強化を目的に、かかりつけ医のための精神疾患研修会を医師会と連携して開催（R2.10.8）。</p> <p>○出雲地域精神保健福祉協議会の部会に「自死総合対策に関する部会（出雲圏域自死総合対策連絡会兼ねる）、出雲市では出雲市自死対策検討委員会として位置づけ、共同で自死に関する地域の実情について総合的に協議（R2.7.17、R2.3.5予定）。</p> <p>○出雲圏域自死総合対策連絡会では、出雲圏域総合対策行動指針（H30～R4）、出雲市自死対策検討委員会では、出雲市自死対策総合計画（H31～R5）に基づき、取組を推進。</p> |
| 県央 | <p>○大田圏域精神保健医療福祉連絡協議会（2/15）及び精神科救急医療体制整備圏域連絡調整会議（11/9）を開催。</p> |
| 浜田 | <p>○浜田圏域における精神科救急医療体制整備事業にかかる、急性精神状態の住民に対するフローチャートを年度初めに関係機関へ配布することにより、対応手順などの再確認を図った。（保健所）</p> <p>○精神科病院と総合病院がH28年度より協定を結んでおり、病病連携が整いつつある。（保健所）</p> <p>○浜田圏域自死総合対策連絡会を開催し、取組状況の共有及び今後の取組の方向性について検討した。（保健所）</p> |

| | |
|----|---|
| 益田 | <p>○総合病院と精神科救急指定医療機関が連携し、精神科受診中の妊婦の産前、産後のフォローを行うことにより、対象妊婦の支援だけでなく、産婦人科と精神科の連携を強化している。</p> <p>○令和元年度に鹿足郡にあぼろ心療所が開設され、圏域内の精神科医療提供体制の充実につながった。</p> <p>○令和元年度島根PEECコース（精神科的問題を有する身体救急患者に標準的な初期評価・初期診察を行うために必要なスキルを身につけるための教育コース）が開催され、参加及び開催支援・協力を行った。</p> <p>○関係機関・相談機関を訪問し、コロナ禍における現状や課題を把握すると同時に、相互の事業や役割を再確認することで連携を深めた。</p> |
|----|---|

(4) 医療観察制度

| | |
|----|---|
| 松江 | <p>○現在この制度による支援対象者なし</p> <p>○島根医療観察制度運営連絡協議会への参加</p> |
| 出雲 | ○支援対象者の社会復帰に向け、入院中から保護観察所等の関係機関と連携し支援 |
| 県央 | ○保護観察所や病院・市町と連携して支援等を行った |
| 浜田 | ○心身喪失者医療観察法の通院処遇中の対象者の支援を多機関・多職種で連携して実施した。（保健所） |
| 益田 | ○医療観察法対象者については個別ケース支援として、保健所としても会議等に参加し、現状の確認と今後の支援について関係機関と検討を行っている。 |
| 隠岐 | ○保護観察所等との連携により、地域移行に向けた働きかけ及び家族の支援を行っている。 |

(5) ひきこもり支援

| | |
|----|--|
| 松江 | ○ひきこもりに関する相談に対応し、状況や問題に応じて医療機関や家族教室への紹介を行った。 |
| 出雲 | ○島根県ひきこもり地域支援センターのサテライトとして、「ひきこもり家族教室」への開催協力。 |
| 県央 | <p>○「島根県ひきこもり支援センター」のサテライトとして相談対応を実施。</p> <p>○こころの健康相談を開催し、ひきこもりを含む相談に対応した。</p> <p>○ひきこもりの家族支援のための家族教室に参加（10/26）</p> |
| 益田 | ○島根県ひきこもり支援センターが配置され、家族教室（心と体の相談センター主催）が開催され、参加協力した。 |
| 隠岐 | <p>○ひきこもり相談や個別支援を通じ、継続した支援を実施。</p> <p>○学童の不登校支援についても、こどものこころの診療ネットワーク相談事業で対応。</p> |

救急医療

R02年度中の取組み状況（各圏域）

1. 救急医療体制

| | |
|----|---|
| 松江 | ○安来市市街地の救急体制確保のため、安来第一病院より救急病院の申し出があり、R3.7.22付けで救急病院として告示された。 |
| 出雲 | ○出雲地区救急業務連絡協議会に保健所長が委員として参画している。今年度総会は新型コロナウイルス感染症のため書面会議での開催となった。 |
| 県央 | ○保健医療計画中間見直しについて関係機関との情報交換を実施 |
| 益田 | ○休日救急の体制は、益田市では、H21年3月に整備された益田市休日応急診療事業において対応している。鹿足郡では、開業医の閉院、医師の高齢化、病院医師不足等により在宅当番医制をH31.3月に廃止。六日市病院と津和野共存病院が初期救急を担っている。 ○令和2年度、益田赤十字病院では、救急車対応は24時間、ウォークインによる救急外来受診を21時までとした。 ○医療のかかり方の啓発活動をしている医療を守る会への支援を継続している。 |

2. 搬送体制

| | |
|----|--|
| 出雲 | 救急医療体制の強化に向けてドクターカーが運用されており、出雲市消防本部と連携した取組が進められています。 【島大のドクターカー】 ・ドクターカーは島大が所持し、直接運用 ・ドクターカーの円滑な運用のため、専任の救急救命士を6名雇用 ・出雲・大田・雲南消防と提携 ・主に外傷症例の場合にドクターカーの適用となる状態（事前に取り決め有り）があった場合、消防から島大に通報。島大の医師、看護師、救急救命士がドクターカーで現場もしくはドッキングポイントにおいて必要な処置等を行い島大に搬送する。 【県中のドクターカー】 ・ドクターカーは消防本部が所持 ・消防隊員が県中での研修用として配置されている。 ・出動要請があったときに、消防隊員と病院スタッフが乗り込み現場に向かい対応する。 |
| 浜田 | ○R2.4.27医第160号通知「救急搬送後に新型コロナウイルスに感染している疑いがある患者と判断した場合の情報共有について」を受け、浜田医療センターに新型コロナウイルス（疑念）搬送後の対応表をFAX送信していただくように調整した。（浜田消防） ○R1.10月に「救急活動マニュアル」を見直し、「心肺蘇生法等の中止を求められた場合の標準的マニュアル」を追加した。（浜田消防） |
| 益田 | ○益田広域消防本部救急救命士資格取得状況（R2.12.14現在） 気管挿管認定救急救命士：12名 ビデオ硬性挿管用喉頭鏡気管挿管認定救急救命士：7名 救急救命士処置拡大2行為認定救急救命士：20名 薬剤投与登録（認定）救急救命士：26名 |

3. 病院前救護体制

| | |
|----|--------------------------------------|
| 浜田 | ○救命救急士の育成のため研修の受け入れを行っている。（浜田医療センター） |
|----|--------------------------------------|

災害医療

R02年度中の取組み状況（各圏域）

1. 地震、風水害等の災害時の医療救護（災害時公衆衛生活動を含む）

| | |
|----|---|
| 松江 | <p>○島根県保健医療調整本部の設置に伴い、これまでの「松江・安来地域災害医療対策会議」を改組し、「松江・安来地域災害保健医療対策会議」を設置した。</p> <p>○R2.6.18 EMIS入力・衛星電話通信訓練に参加し、衛星電話を利用した連絡体制の確認を行うとともに、システム及び衛星電話利用方法の習熟に努めた。</p> |
| 雲南 | <p>○災害派遣要請時への体制整備（島根県薬剤師会災害対策マニュアル）・DMAT研修（島根県薬剤師会雲南支部）</p> <p>○避難所における新型コロナウイルス感染症研修を実施。（雲南市）</p> <p>○防災担当課と連携し、災害保健活動マニュアル、記録、準備物品の整備。（飯南町）</p> |
| 出雲 | <p>○出雲地域災害保健医療対策会議設置要綱を改定した。同会議では発災直後からの具体的なDMAT派遣の流れを確認するとともに、島根県広域入院調整本部でのDMAT活動について共有した。また、在宅療養児・者に対する災害時支援について検討した。（令和2年11月11日）</p> <p>○広域災害救急医療情報システム（EMIS）入力訓練を実施した。（令和2年6月18日）</p> <p>○島根県保健医療調整本部内におけるDHEATの役割について、出雲地域災害保健医療対策会議で情報共有した。</p> |
| 県央 | <p>○保健所内鳥インフル健康観察班訓練を実施。（12/21）</p> <p>○非常用電源確保事業の説明会を開催。市町担当者と災害時の体制、機器の使用方法及び運搬手順を確認。（10/22）</p> <p>マニュアルの読み合わせ等を実施（12/9）</p> <p>○大田地域災害保健医療対策会議開催（7/30）</p> <p>○保健医療計画中間見直しにおける関係機関との情報交換実施</p> <p>○コロナ対応所内会議、所内訓練、関係者連絡会の開催。</p> |
| 浜田 | <p>○江津地区水害発生時、消毒救急セットを100セット支援した。（食品衛生協会）</p> <p>○国保診療所において災害初動時のアクションカードをR元に作成し、見直し中。（浜田市）</p> <p>○DMATを2チーム有しており、今年度はDMATより熊本豪雨災害時に1名（ロジ）を派遣、また新型コロナウイルスが発生したクルーズ船へ1名派遣した。（浜田医療センター）</p> <p>○災害派遣医療チーム（DMAT）を配置し、災害時には病院を支援するとともに、災害現場における緊急処置等に従事することとしています。（済生会江津総合病院）</p> <p>○江津市医師会医療救護班の一部変更。（江津市医師会）</p> <p>○令和2年10月1日に、浜田地域災害医療対策会議を開催し、浜田地域災害医療対策会議設置要綱の改正や、江津市豪雨災害の報告・熊本県DMAT活動報告、災害時における医療救護班設置までのフローチャートの承認、新型コロナウイルス感染症対策を講じた避難所運営についての報告、意見交換等を実施した。（保健所）</p> <p>○令和2年6月18日に、所内でEMIS訓練と衛星電話訓練を実施した。【各医療機関と連絡】（保健所）</p> |
| 益田 | <p>○益田地域災害医療対策会議を平成24年度からを毎年度開催し、災害時の連携や連絡体制整備の取組み状況について確認している。令和2年10月実施。島根県保健医療調整本部の体制の変更のため、R2.10.29より益田地域災害保健医療対策会議の要綱を変更。</p> <p>○災害医療拠点病院である益田赤十字病院に、災害医療コーディネーター2名、災害時小児周産期リエゾン1名の登録がある。</p> <p>○難病患者の支援体制整備の一環として、災害時の備えおよび支援体制整備を目的に、非常用電源についての講習、医療的ケアを必要とする患者の災害時の個別支援体制の確認等を行った。</p> |

2. 災害拠点病院等の整備

| | |
|----|--|
| 出雲 | ○広域災害救急医療情報システム（EMIS）入力・衛星電話通信訓練を実施し、保健所と各災害医療関係機関との間で、災害時の情報通信方法について確認した。（令和2年6月18日） |
| 雲南 | ○令和元年度の防災訓練で出た多くの課題や問題点を踏まえ訓練を実施（雲南市立病院） |
| 浜田 | ○地域災害拠点病院として、災害時の地域の核となるよう、通信環境の整備や備蓄等を行っています。（済生会江津総合病院） ○地域災害拠点病院に指定されており、今年度、災害訓練を実施する予定（R3.2.19）となっている。（浜田医療センター） |

地域医療（医師確保等によるへき地医療の体制確保）

R02年度中の取組み状況（各圏域）

1. 広域的な地域医療支援体制の構築

| | |
|----|---|
| 雲南 | ○雲南市立病院附属掛合診療所での診療（雲南市立病院） |
| 県央 | ○「地域の医療機能を充実させる取り組みについての意見交換会」（11/6実施） まめネットの利用によるWEB会議で実施 |
| 浜田 | ○済生会江津総合病院と江津市内の診療所の双方に籍を置き、両施設で診療にあたる医師の相互交流の推進。（江津市医師会） ○地域医療にかかる交流・啓発イベント（夏祭り・学園祭）を企画。（規模を縮小し実施）（西部島根医療福祉センター） ○地域医療連携推進法人の設立により、法人内で定期的に意見交換を行う等さらに開業医との連携が進んでいます。（済生会江津総合病院） ○圏域における地域医療拠点病院として、地域の医療提供体制を支えるとともに、開業医との連携を強化しています。（済生会江津総合病院） ○研修医の受入数を増やし、研修後の医師確保について取り組んでいる。（浜田医療センター） ○昨年度より江津市内の国民健康保険診療所が医師の高齢化に伴い診察が困難となったため、当院から週に1度医師を派遣し、地域医療の確保に努めています。（済生会江津総合病院） |
| 益田 | ○津和野共存病院では益田赤十字病院との間で「まめネット」のweb会議システムを活用した褥瘡回診行っている。 |

2. 地域医療に従事する医師の確保・養成・支援を行うための施策の推進

（1）医師を確保する施策（現役の医師の確保）

| | |
|----|--|
| 雲南 | ○総合診療プログラムの充実を図り、専攻医を募集。 ○地域枠推薦医師の定員を2名から3名に拡充した。（雲南市立病院） ○専攻医の受入（総合診療）（飯南病院） |
| 県央 | ○保健医療計画中間見直しにおける関係機関との情報交換実施 |
| 益田 | ○益田市医師会では、「親父の背中プログラム」として、県外の地域医療に関心の高い医師を受け入れ、医師会病院・会員（診療所）にて研修を実施。 H30年度：医師2名受入れ。 R 1年度：医師1名受入れ。 R 2年度：医師1名受入れ。 |

（2）地域医療を担う医師の養成

| | |
|----|---|
| 出雲 | ○地域医療実習（夏季は新型コロナウイルス感染症患者発生に伴い中止、春季は実施し2名の参加あり）では、医学生が病院、診療所、社会福祉施設、保健所等で実習をする中で地域医療の実態や連携について学ぶ機会を持った。 |
| 県央 | ○圏域の地域医療を支える中核病院の特性を学びながら様々な実習（外来・病棟・夜間救急外来・訪問診療等）を盛り込み、さらに義肢・装具・医療器具製作現場（中村ブレイス）見学等の圏域特性を活かした実習プログラムを3月と8月に行っている。 夏季についてはコロナ対応として研修中止 |

| | |
|----|---|
| 浜田 | <p>○医療連携・保健福祉との連携等について学習してもらうため、医学生（1～6年生）を対象に、8月と3月の2回各3日間、地域医療実習を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で8月19～21日の実習は開催できず、3月15～17日は開催予定である。実習機関先は、浜田医療センター、済生会江津総合病院、西部島根医療福祉センター、浜田市国保診療所。（保健所）</p> <p>○地域医療実習の受け入れ施設として、地域医療を担う医師の養成に取り組むこととしていますが、本年度はコロナの影響により実施できませんでした。（済生会江津総合病院）</p> <p>○医療職についての知識を深めてもらうために、医療に関する講演会を浜田市の浜田高等学校と江津市の石見智翠館高校・江津高等学校の生徒を対象に開催しようと学校に呼びかけたが、新型コロナウイルスの影響で今年度は開催を見送った。（保健所）</p> <p>○地元の高校生を対象に実習の受け入れや触れ合う機会を作り、医療系職種に関心を高める取り組みを進めることとしていましたが、本年度はコロナの影響により実施できませんでした。（済生会江津総合病院）</p> <p>○市内の小中学校で地域医療教育を実施した。国民健康保険診療所では小中学校の見学の受け入れ、中高生の医療体験実習を実施した。中高生が現役の医師や看護師、医学生・看護学生等と交流ができるよう「医学系学生と話そう」を実施した。医学部や医師国家試験合格者に対して、合格を祝う会を実施した。地域卒学生や地元出身学生に対しては、浜田市の医療の現状を発信した。国保診療所においては、島大や島大から地域医療実習を受け入れた。また、総合医育成のために、浜田医療センターと「総合診療研修プログラム」及び学会認定の「家庭医療専門研修プログラム」を作成し、受け入れ準備はできている。（浜田市）</p> <p>○地域医療教育推進事業の活用（R2年度6校申請）【江津市】</p> |
|----|---|

(3) 地域で勤務する医師の支援

| | |
|----|---|
| 益田 | <p>○津和野共存病院へR1年度から自治医科大学卒業の医師及び島根大学からの医師が派遣されている。</p> <p>○関係機関が連携し、地元出身の医療従事者の確保のため、地域卒推薦学生を積極的に支援している。</p> <p>○市町ごと、圏域合同で、管内市町出身の医学生を対象として意見交換会を開催。</p> <p>○保健所では、益田圏域の地域医療について医学生に関心を持ってもらう機会とするため、春と秋の地域医療実習を管内医療機関と協力し受け入れている。</p> <p>○中・高校生の医療現場体験実習を医療機関、市町、教育委員会と連携して実施</p> <p>○市町では、地域医療教育推進事業として、小中学校での地域医療をテーマとして取り組みを実施している。</p> |
|----|---|

(3) 地域で勤務する医師の支援

| | |
|----|---|
| 益田 | <p>○平成27年度、28年度に、益田赤十字病院と益田地域医療センター医師会病院・津和野共存病院・六日市病院がそれぞれ2医療機関間で、「連携協定」を締結し、患者紹介、診療の相互協力・支援、研修、人材育成等の医療連携を進めている。</p> <p>○津和野町と益田赤十字病院がR1、5月地域医療連携協定を締結。人材確保等の取組を進めている。</p> <p>○市町との医療行政関係者連絡会や益田地域病院長等連絡会議において、圏域全体での医師確保およびサポート体制について協議し連携した取り組みを実施している。</p> <p>○「益田の医療を守る市民の会」「津和野町の医療を守り支援する会」活動の支援を行い、医療機関の適正受診等の啓発活動を支援している。</p> |
|----|---|

3. 看護職員を確保する施策の推進

(1) 確保・定着に向けた支援

| | |
|----|--|
| 雲南 | <p>○新型コロナウイルス感染防止のため学校訪問は止め、パンフレット等を郵送（平成記念病院）</p> |
| 浜田 | <p>○准看護学校の運営。（浜田市医師会）</p> <p>○令和5年度以降の附属看護学校について存続または廃止かの方向性を示すよう機構本部より指示があり、当院は存続させる方向性としているが、機構本部から承認は受けておらず否定的である。（浜田医療センター）</p> <p>○ナースセンター相談業務を月1度院内を会場に実施し、看護職員の再就業促進に努めています。（済生会江津総合病院）</p> |

| | |
|----|--|
| 益田 | ○例年、管内医療行政関係者連絡会において、看護師確保対策や現状と課題について、情報共有をしているが、新型コロナウイルス感染症の影響で今年度は十分な情報共有ができなかった。 ○地元出身の医療従事者の確保のため、地域枠推薦学生を積極的に支援している。 |
|----|--|

4. 地域医療を確保する施策の推進

(1) 地域医療拠点病院

| | |
|----|---|
| 松江 | ○R2.3月松江市立病院、玉造病院が新たに地域医療拠点病院指定を受け、圏域内の有指定病院は5病院となった。これら5病院が中心となり、医師派遣等を通じた地域医療支援の取り組みが実施されている。 |
| 出雲 | ○へき地診療所3か所、半島振興法指定地域にある公立診療所2か所については、地域医療拠点病院（島根大学医学部附属病院・出雲市立総合医療センター）・出雲医師会の協力で診療を確保している。 |
| 益田 | ○益田圏域では、益田地域医療センター医師会病院、益田赤十字病院、六日市病院が地域医療拠点病院である。 |

(3) 巡回診療の確保

| | |
|----|--|
| 雲南 | ○田井地区での巡回診療。（R1：125件）（雲南市立病院） |
| 益田 | ○益田地域医療センター医師会病院では、益田市内の無医地区等5か所の巡回診療の取組を実施。 ○益田市の小野地区において、地域の医療の在り方が検討されており、益田市とともに支援している。 |

(4) 僻地診療所の充実

| | |
|----|---------------------------|
| 浜田 | ○へき地への健診事業。（西部島根医療福祉センター） |
|----|---------------------------|

5. 診療を支援する方策

(1) ドクターヘリ等の活用

| | |
|----|---|
| 松江 | R2.10.20 鳥取県のドクターヘリの活用が増加している安来地域におけるドクターヘリ運用の現状及び課題等について、医療政策課、安来消防及び松江保健所の三者協議の場を設け、情報共有を行った。 |
|----|---|

(2) 医療情報ネットワークの活用

| | |
|----|---|
| 県央 | ・圏域4病院連携室が主催する「まめネットweb会議システム」を利用した情報交換会への参加（四半期ごと） |
|----|---|

周産期医療

R02年度中の取組み状況（各圏域）

1. 周産期医療ネットワーク

| | |
|----|---|
| 松江 | ○松江圏域周産期医療連絡協議会等により、松江圏域における周産期医療に関する課題等を協議、検討し、連携推進を図っている。 |
| 出雲 | ○医療依存度の高い在宅療養児生活支援検討会を開催し、医療機関と地域の保健・福祉との連携及び支援体制の構築について検討している。 ○今年度は災害時の支援体制について検討を行った。 |
| 隠岐 | ○周産期医療体制の協議の場として「松江圏域周産期連絡協議会」（全体会・看護連絡会）へ参画 |

2. 中核となる医療機関と地域周産期医療関連施設における機能分担と連携の推進

| | |
|----|--|
| 松江 | ○松江圏域周産期医療連絡会看護連絡会で作成した「かるがもファイル」により、松江圏域における行政、産科医療機関の取組状況を共有し、連携を推進している。 ○松江圏域周産期医療連絡協議会等において、情報交換を行うなど連携を促進している。 |
| 雲南 | ○引き続き周産期医療体制の充実を図る。（平成29年度：39件、平成30年度：69件、令和元年度：66件）（雲南市立病院） |
| 出雲 | ○周産期医療検討会・周産期看護連絡会を開催し、圏域の周産期医療における連携体制について検討している。 ○今年度は新型コロナウイルス感染症流行下における妊産婦総合対策事業を中心に、関係機関の連携体制について検討した。 |
| 浜田 | ○保健所を中心とした周産期医療ネットワーク連絡会を中心に、浜田医療センター、助産院等の連携強化。（浜田市） ○浜田圏域周産期医療連携体制検討会を開催し、圏域における周産期の課題や連絡票の活用状況について共有し、今後の連携体制のあり方について検討した。（保健所） ○セミオープンシステム（診療所1カ所、分娩2カ所）を運用し、市の窓口での紹介・パンフレットの配布により周知を図っている。（保健所） |
| 益田 | ○地域周産期母子医療センターである益田赤十字病院において、出雲部の医療機関と連携して周産期医療の提供が行われている ○搬送時の情報提供書（母体・新生児各搬送連絡票）を県内で統一し、迅速な情報共有が可能になっている。 ○益田赤十字病院と津和野共存病院でセミオープンシステムを取っており、鹿足郡に住む妊婦や鹿足郡で就職している妊婦が身近な医療機関で妊婦健診を受けられるようになっている。 ○特定妊婦等、支援が必要なケースについては、市町の要対協が中心となり支援会議が開催されており、参加している。 ○益田赤十字病院が開催する地域周産期母子医療センター看護連絡会に参画している。 ○益田地区救急業務連絡協議会及びメディカルコントロール部会に参画し、連携体制の強化・充実を図る。 |

3. 医療従事者の確保

| | |
|----|--|
| 浜田 | ○年々出産数は減少しているが、十分な数の出産に対応できるよう医師確保に取り組んでいる。（浜田医療センター） ○常勤の産婦人科医師2名体制により、この地域に欠かすことのできない周産期の機能を維持しています。（済生会江津総合病院） |
| 益田 | ○島根県医師確保計画において圏域計画を策定。益田圏域は、産科医・小児科医が相対的医師少数区域である。 |

4. 医師と助産師間の連携

| | |
|----|---|
| 松江 | ○助産師外来、院内助産の導入の動きあり。 マザリー産婦人科：助産師外来、院内助産 たがしらレディースクリニック：助産師相談室開設 松江赤十字病院：院内助産R3.1月開始予定 |
| 浜田 | ○浜田圏域周産期医療連携体制検討会を開催し、助産師外来の状況や助産師の状況について共有した。（保健所） |
| 益田 | ○益田赤十字病院で、院内助産に取り組まれている。 |

5. 搬送体制の強化

| | |
|----|---|
| 益田 | ○益田赤十字病院に配置されている周産期ドクターカー、ドクターヘリにより搬送が行われている。 |
|----|---|

6. 妊産婦の健康管理の充実

| | |
|----|---|
| 松江 | ○松江圏域周産期医療連絡協議会全体会及び看護連絡会において、妊産婦への支援について検討を行っている。 ○看護連絡会では、産科医療機関・市町村での妊産婦支援の状況について情報交換した。特に、産後ケアの今後の取組促進に向け、情報交換を行った ○安来市がR2.4月母子健康包括支援センターを設置、全ての妊婦に対し、妊娠届出時に保健師が面談できるようになった。（松江市については以前から保健師が面談） |
| 雲南 | ○母子健康包括支援センターだっこ♪において、妊娠届け出時の相談の充実。支援プランの作成と、関連機関との連携強化。（雲南市） |
| 出雲 | ○圏域の低出生体重児出生割合が全県より高い割合で推移していることから、妊婦の食生活調査結果（H30年度）をもとに妊婦向け健康教育用リーフレットを作成し、医療機関等に配布した。 ○出雲市では、母子包括支援センター「きずな」において、切れ目ない支援の充実に努めている。産後ケア事業について、R1年度より実施している。 ○保健所では、医療機関や地域の助産師を中心とした、周産期看護連絡会を開催し、妊産婦への連携した支援ができるよう支援している。 ○市と医療機関では質問票やアセスメント票を活用している。 ○医大・県中HPにおいて精神科医師、市を含めた多職種連携による合同カンファレンスが開催されている。 ○出雲圏域周産期医療体制検討会、周産期看護連絡会において、妊産婦のメンタルヘルスについて継続して検討し、産科、精神科、小児科連携を進めている。 |
| 県央 | ○管内全市町で子育て支援包括支援センターが設置された。（大田市令和元年10月） ○圏域の「フォローが必要な妊産婦等保健指導連絡事業」により、妊娠期から医療機関と行政が連携を図り、妊産婦等へ支援されている。 ○管内では3市町（大田市、美郷町29年度～、邑南町）で妊婦歯科健診を実施。 ○妊婦健診で精密検査（糖尿病）が必要な者には、精密検査の受診券を受け取りに行政の窓口に行った際に、保健指導を受ける体制ができている。 ○管内全市町で子育て支援包括支援センターが設置され、妊娠期から切れ目のない支援が提供されている。 （大田市令和元年10月） ○管内全市町で産後ケア事業が実施されている。 |

| | |
|----|---|
| 浜田 | <p>○両市ともに妊婦歯科健診を実施している。令和3年3月4日浜田圏域歯科保健連絡調整会議にて状況を確認予定。（保健所）</p> <p>○江津市では、市内の全高校で人生設計啓発事業を実施。（保健所）</p> <p>○浜田圏域周産期医療連携体制検討会開催にて取組状況確認した。（保健所）</p> <p>○助産師による保健指導の一環として、妊娠時期に応じた体調管理や出産・育児に向けた相談に応じるなど個別のサポートを行っている。（浜田医療センター）</p> <p>○産後質問票を活用し、ハイリスク者には市と連携した支援を行っています。（済生会江津総合病院）</p> <p>○母親教室、子育て相談・助産外来を活用し、母乳ケア、生活の相談、育児の相談など妊娠中から支援しています。（済生会江津総合病院）</p> |
| 益田 | <p>○年2回益田赤十字病院主催の看護連絡会にて、行政と医療の連携を図っている。</p> <p>○関係機関で情報を共有するための情報誌「すくすく」を作成し、毎年更新している。</p> <p>○全市町で14回の妊婦健診が公費負担対象となっている。また、津和野町、吉賀町は、妊婦の通院交通費16回分を全額助成している。</p> <p>○益田赤十字病院では妊婦・褥婦全員にEPDSを実施しており、気になるケースについては病院のMSWを通して速やかに市町につないでいる。</p> <p>○3市町で子育て世代包括支援センターが開所され、産前から切れ目ない支援を実施している。</p> <p>○産後デイケアは3市町、産婦健診（津和野町・吉賀町）、子育てヘルパーや産前産後サポート事業（吉賀町）などの事業を展開し、出産後も切れ目ない支援が受けられる体制が整えられつつある。</p> <p>○吉賀町では、助産院が今年度開院された。</p> <p>○H30年度から松ヶ丘病院や行政とハイリスク妊婦会議を開催して連携を図っている。</p> |
| 隠岐 | <p>○R2年4月～管内全町村に子育て世代包括支援センターが設置され、切れ目のない支援の体制が進んだ。</p> <p>○町村の「産後のケア事業「産前産後サポート事業」等の事業構築に向けて支援。</p> |

7. 地域住民への啓発

| | |
|----|--|
| 出雲 | <p>○出雲市の産後ケア事業により、産後1年以内の産婦に対し、助産師が家庭訪問し、子育てへの相談対応が行われている。</p> |
| 県央 | <p>○関係機関と連携した支援を実施。</p> <p>○家族の新型コロナウイルス感染症発症時の対応について家族、支援者で検討・共有を行った。</p> |
| 浜田 | <p>○浜田圏域働く人の健康づくり情報ファイルに働く女性の支援に関する情報を掲載し、地域社会や事業所での理解の促進を図っている。（保健所）</p> |

8. 重症児等の支援

| | |
|----|--|
| 松江 | <p>○安来市において、小児に対応できる訪問看護ステーションが不足しており、米子市の事業所がフォローしているため、緊急時の対応が難しい状況。</p> <p>○医療的ケア児において、介護者が新型コロナウイルス感染症となった場合の対応について、医療機関や関係機関、家族と検討し、共通認識を図っている。</p> <p>○長期療養児等の家族交流会や自主グループ活動の支援を行うとともに、松江市・安来市に活動等の情報提供を行い、連携して支援している。</p> |
| 出雲 | <p>○医療依存度の高い在宅療養児生活支援検討会を開催し、医療機関と地域の保健・福祉との連携及び支援体制の構築について検討している。</p> <p>○今年度は災害時の支援体制について検討を行った。</p> <p>○検討会后より、人工呼吸器を使用している児から順に関係者と協力して、支援計画の作成を行っている。</p> |
| 浜田 | <p>○医療機関からの情報提供に基づき関係機関と連携体制を組み、個別ケースへの支援をしている。（在宅療養支援ファイルの作成）（保健所）</p> <p>○個別ケースを通し、社会資源やサービスについての課題を共有、検討している。（保健所）</p> |

| | |
|----|---|
| 益田 | <ul style="list-style-type: none"> ○医療的ケアが必要であったり、退院後も支援が必要な場合は病院から保健所に情報提供があり、退院前若しくは退院直後から訪問等により支援をしている ○医療機関や市町と支援会議を重ね、連携を取りながら支援体制づくりをしている ○個別ケースの災害時対応マニュアルを更新している |
| 隠岐 | ○コロナ感染予防の観点で、希望するケースに消毒液の配布を実施。 |

9. 災害時の体制

| | |
|----|-------------------------------|
| 県央 | ○医療的ケア必要児の災害時を想定した対応マニュアルの更新。 |
|----|-------------------------------|

小児救急を含む小児医療

| R02年度中の取組み状況（各圏域） | |
|-------------------|---|
| 浜田 | <ul style="list-style-type: none"> ○小児医療が継続できるように医師確保の取組みを行っている。（浜田医療センター） ○大学からの派遣の非常勤医師により外来診療を行っています。また、常勤の小児科医師確保に努めています。（済生会江津総合病院） ○常勤の小児科医が不在のため、小児救急は対応しておりません。（済生会江津総合病院） ○浜田市直営の休日応急診療所を管理運営。（浜田市） ○発達障害・乳児股関節健診、障がい児・小児整形の診察、学校検診（股関節）による早期発見、早期治療。（西部島根医療福祉センター） |
| 益田 | <ul style="list-style-type: none"> ○益田市では、H21年3月に整備された益田市休日応急診療事業で、鹿足郡ではH31年3月在宅当番医制を廃止し、津和野共存病医院、六日市病院が対応している。 ○益田市では「益田の医療を守る市民の会」と協力して、救急のかかり方について啓発に取り組んでいる。 ○益田市と津和野町では、24時間体制の健康ダイヤルを実施。 |

在宅医療

R02年度中の取組み状況（各圏域）

1. 退院支援

| | |
|----|---|
| 松江 | <p>○R2. 11. 17～11. 27 医療機能分化について、8病院へのヒアリングを実施した。</p> <p>○R2. 12. 21 松江保健医療対策会議 医療・介護連携部会（松江地域医療構想調整会議）を開催。圏域における医療機能分化、在宅医療等提供の現状、課題について検討した。</p> <p>○圏域内の登録特定行為事業者に対し、聞き取りにより喀痰吸引等の実施状況を把握実施。</p> <p>○圏域内の施設（有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅）において夜間も含めて喀痰吸引等対応可能な施設の状況把握実施。今後、喀痰吸引が必要な対象者が在宅での療養を希望した際、サービスが提供できるよう市在宅医療介護連絡会等において検討実施。</p> |
| 雲南 | <p>○奥出雲病院では、病床機能転換で介護医療院開設（奥出雲病院）</p> <p>○雲南市立病院が施設職員対象に喀痰吸引の研修実施（雲南市立病院）</p> <p>○地域ケア会議等を活用し介護事業所や地域包括支援センター等介護分野との課題共有、「雲南圏域における入退院連携マニュアル」及び連携シートの活用を図り、医療分野と介護分野の連携強化を図った。（雲南市）</p> <p>○まめネットへの加入（飯南町立飯南病院）</p> <p>○まめネットを活用し、えがおの里診療所、掛合診療所、雲南市立病院医師への連絡・相談・指示受けなど迅速に対応できるようになった。異常の発見から診察までの時間を短縮することができた。（雲南市社会福祉協議会）</p> |
| 出雲 | <p>【取組状況】</p> <p>○出雲市では、「出雲市入退院連携ガイドライン」を入退院連携ガイドライン策定ワーキンググループ会議で策定し、出雲市在宅医療・介護連携推進連絡会議に諮って決定、R3. 4月から運用開始予定。保健所も入退院連携ガイドライン策定ワーキンググループ会議や出雲市在宅医療・介護連携推進連絡会議に参画し検討を行った。</p> <p>○入退院時における病院と在宅サービス事業所間の情報共有に関するフォローアップ調査（県実施）結果の情報提供を各団体に行い、関係機関で退院支援における連携を充実させる取り組みを支援していく。</p> <p>【課題】</p> <p>○出雲圏域内における「出雲市入退院連携ガイドライン」の内容の普及と定着（ルールや書式が形骸化しないようにするための方策）が必要である。</p> <p>○「出雲市入退院連携ガイドライン」の内容に対する医療介護従事者からの意見集約と反映（内容改訂）の仕組み化が必要である。</p> <p>○出雲圏域難病対策地域協議会において、介護職員の痰吸引の実施状況について情報共有した。痰吸引の養成研修を受けても、実際に痰吸引を実施している介護職員が少ないことや痰吸引できる事業所間のつながりが薄いため効率的なサービス提供ができていないことなどが課題。</p> |
| 県央 | <p>○大田市立病院総合医育成センター所属医師等との意見交換会を実施（1/18）</p> <p>○圏域3病院連携室との意見交換をふまえ、大田圏域入退院連携検討委員会を開催予定（2/18）</p> |
| 浜田 | <p>○「浜田市入退院支援マニュアル（H30）」を基に、圏域版を作成し活用を図る。（保健所）</p> <p>○入院支援センターを拡充し、専任看護師長を配置しており、スムーズな退院支援を行い、在宅医療への移行を進めている。（浜田医療センター）</p> <p>○痰吸引、経管栄養研修用シュミレーターの貸出により、施設介護職員の研修支援を行った。（実績：現在まで4回）（保健所）</p> |

| | |
|----|--|
| 益田 | <p>○保健医療対策会議医療・介護連携部会益田地域病院長等連絡会議を中心に、地域医療構想に基づく圏域病床機能について検討を進めている。</p> <p>○5病院ともに入退院連携室職員の充実が図られている。</p> <p>○慢性期療養が圏域内で完結できない理由の一つに医療的ケアを提供できる体制が不十分であることが考えられ、喀痰吸引等必要な患者の受け入れ体制について状況把握を今後実施。</p> <p>○昨年度作成した「益田版意思表示支援シート」については、圏域での活用が進んでいない状況。一方で、本人の意志を支援者間でつないでいく必要があるという認識は、圏域内関係者それぞれで持っている。</p> <p>○医療・介護資源について、圏域内で医療・介護資源マップが存在しなかった吉賀町において、作成に向けた検討が始まった。</p> <p>○益田圏域は、まめネットの普及率は低い。</p> <p>○津和野町・津和野共存病院において、まめネットを活用し、遠隔医療相談を実施。「まめネット在宅ケアサービス」の活用も検討されている。</p> <p>○津和野町では、津和野共存病院を中心に、益田赤十字病院との入退院の場面、急変時の場面における連携においてまめネットの活用が進んでいる。</p> |
| 隠岐 | <p>○島後において、隠岐病院の退院調整が困難になっている。医療的ケアが必要な方の受け皿がないこと、家族がいない等で在宅に帰ることが難しいこと等の課題がある。隠岐病院・隠岐の島町・隠岐広域連合・保健所で入退院連携の改善策を検討する意見交換会で検討中。</p> <p>○島前病院・隠岐病院と本土の医療機関間の情報連携の充実に向けて、1つの手法としてまめネットの利用についても情報提供。</p> |

2. 日常の療養支援

| | |
|----|--|
| 松江 | <p>○R2. 11. 19 介護保険事業計画と保健医療計画の整合性確保等に関する連絡会を開催。在宅医療提供体制の現状を共有し、第8期介護保険事業計画における施設整備計画について協議した。</p> <p>○R2. 12. 21 松江保健医療対策会議 医療・介護連携部会（松江地域医療構想調整会議）を開催。圏域における医療機能分化、在宅医療等提供の現状、課題について検討した。</p> <p>○個別ケースで関係機関が連携して支援するために情報共有、検討の場をその都度設定している。</p> <p>今年度は特に、養育者が新型コロナウイルス感染症となった場合の医療的ケア児の支援について個別に検討した。</p> |
| 雲南 | <p>○町が事業主体である訪問看護事業に病院の看護師（3名）を配置（町立奥出雲病院）</p> <p>○在宅における栄養指導を実施（町立奥出雲病院）</p> <p>○年数回、在宅医療意見交換会を開催し、薬剤師、ケアマネ等と意見交換を実施（雲南医師会）</p> <p>○在宅患者訪問薬剤管理等に対する体制整備・研修会の開催（応需薬局の拡大・応需件数の延伸）（島根県薬剤師会雲南支部）</p> <p>○町内の特養への訪問診療開始（平成記念病院）</p> |

| | |
|----|---|
| 出雲 | <p>○低栄養改善・食支援対策検討会及び研修会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止とした。</p> <p>○今年度から専門職派遣事業を出雲市へ事業移行し、出雲市において実施体制が整えられたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い事業中止となっている。</p> <p>○低栄養改善・食支援対策について出雲市と連絡会を実施し、取り組みの方向性について確認した。</p> <p>【取組状況】</p> <p>○保健所が開催する「医療・介護連携専門部会」、出雲市が開催する「出雲市医療・介護連携推進連絡会議」において検討が進んでいる。</p> <p>○出雲市において、医療と介護が有機的に連携を図り、継続的な在宅医療と介護を一体的に提供するため、令和2年度末に「在宅医療・介護連携推進基本計画」が策定された。</p> |
| 県央 | <p>○医療連携推進補助事業を活用しながら、大田食支援研究会の活動を支援（随時）</p> <p>○邑南町役場、邑智郡医師会、町内訪看ステーションとの意見交換会をコーディネート（2/15予定）</p> <p>○圏域市町の地域ケア会議や多職種連携会議等に参加し、助言を行う（随時）</p> |
| 浜田 | <p>○島根県歯科医師会西部会館事業部との連携により、ケアマネージャーや介護職員等に向け、口腔機能マネジメントの重要性の研修会を実施した。（保健所）</p> <p>○浜田市訪問看護ステーション支援事業補助金活用による条件不利地域への訪問看護の提供。（訪問看護）</p> <p>○県で実施している訪問看護ステーションに対する補助事業や支援事業について情報提供した。（保健所）</p> <p>○退院調整看護師養成研修会における実習受け入れ（訪問看護）</p> <p>○圏域の入退院支援、看取り、緩和ケア等日常の療養支援における課題などを、現場レベルのワーキングにおいて検討し、医療介護連携部会に報告した。（保健所）</p> |
| 益田 | <p>○当圏域では、「益田圏域生活療養ノート」を退院時必要な方に作成し、退院後も継続したりハビリテーションができるよう作成している。</p> <p>○津和野町・吉賀町は、医療介護総合確保基金市町村支援事業の「訪問看護支援事業」を中山間地における訪問看護師の運営面の補助として活用している。</p> <p>○訪問看護ステーション協会益田支部会を開催し、定例的に実施をされるようになった。今年度2回目はweb会議システムを利用し、コロナ禍にあっても引き続き情報共有をしている体制が整った。</p> <p>○益田地域医療センター医師会病院は、特定行為研修を終了した看護師を育成し、現在5人の特定看護師が誕生している。現在は病棟での活動が主であるが、退院後訪問の実施等、在宅支援の取組も少しずつ対応している。</p> <p>○益田医師会が実施する医療介護総合確保基金「圏域課題解決推進事業」において、特定行為看護師の実践環境の整備と実践指導・研修を実施されている。</p> <p>○保健医療対策会議・医療介護連携部会において介護サービス必要量に係る、「在宅医療のサービス料推計」の説明とともに、在宅医療に係る圏域のデータを共有し、医療介護連携の取組として、「まめネット」「益田市医師会在宅医療の意見交換（看取り代診医システム）」「ACP等の啓発」の取組を中心に情報共有、意見交換を行った。</p> <p>○医療的ケアが必要であったり、退院後も支援が必要な場合は医療機関や市町と支援会議を重ね、連携を取りながら支援体制づくりをしている。</p> |

3. 急変時の対応

| | |
|----|--|
| 雲南 | <p>○在宅医療養後方支援病院として、診療所医師の負担軽減に努めており、令和2年3月末時点の登録患者265名（雲南市立病院）</p> <p>○地域包括ケア病床の増床（8床→10床）（飯南病院）</p> |
|----|--|

| | |
|----|---|
| 益田 | <p>○益田市医師会は、休日夜間に開業医・施設医が不在の時に入院受け入れがしやすいように後方支援病院となり、40件の登録、44人の利用（R2.4～11月）につながった。</p> <p>○在宅医療に関わる医師の意見交換会で、看取りの代診医システムの導入に向けた議論が始まった。</p> |
|----|---|

4. 看取り

| | |
|----|---|
| 松江 | <p>○松江市では松江市医師会、市内の病院、訪問看護ST、介護支援専門員協会、終活カウンセラー等によるACP普及・啓発推進協議会によりACPの普及啓発について検討し、公民館等での市民講座、終活支援ノートの出前講座、ACP啓発動画を作成。</p> |
| 雲南 | <p>○地域ケア科医師を中心に、訪問診療（令和元年度：170回）往診（令和元年度：24回）在宅看取り（令和元年度：10名）を行った。（雲南市立病院）</p> <p>○「看取りのしおり」の活用（雲南市社会福祉協議会）</p> |
| 県央 | <p>○4病院連携協定による意見交換会の実施（1/22）</p> <p>ACPをテーマに事例検討を実施</p> |
| 浜田 | <p>○現場レベルのワーキング等において、浜田市・江津市で作成されたACPに関する啓発媒体を関係者に周知する機会を持った。（保健所）</p> |
| 益田 | <p>○各市町の地域支援事業の取組の一環として、ACPについての普及啓発の取組が進んできている。益田市では、11月をACP普及啓発月間と定め、益田市医師会作成の啓発パンフレットなどを利用しながら、住民への啓発を行った。また、津和野町では、在宅医療を扱った映画上映に出前講座を合わせる形式での住民啓発を展開した。吉賀町では、医療・介護関係者向けにACPについての導入研修を行うなど、支援者に向けた知識の普及に努めた。</p> |

5. 在宅における連携体制の構築

| | |
|----|---|
| 松江 | <p>○松江市在宅医療・介護連携支援センター、松江市担当課との連絡会を実施（月1回）。</p> <p>○安来市在宅医療支援センター、安来市担当課との連絡会を実施（年度当初）。</p> <p>○R2.12.21 松江保健医療対策会議 医療・介護連携部会（松江地域医療構想調整会議）を開催。圏域における医療機能分化、在宅医療等提供の現状、課題について検討した。</p> |
| 雲南 | <p>○新型コロナウイルス対応として、医師会雲南ブロック会に対する保健医療福祉の取り組みを、書面により周知。（雲南市）</p> <p>○新型コロナウイルス対応として、健康づくり講演会CATVの番組放映により実施。（雲南市）</p> <p>○雲南医師会仁多ブロックで実施する在宅当番医制に対する支援（奥出雲町）</p> <p>○条件不利地に対して訪問診療を実施する医療機関に対する支援（奥出雲町）</p> |
| 出雲 | <p>○出雲市では出雲圏域在宅医療連携推進連絡会が年2回開催され、関係機関と課題の共有化と解決に向けた取組の検討を進めている。保健所も参画し連携して取り組みを進めている。</p> <p>○出雲医師会開催の在宅医療懇話会（2か月に1回開催）は、新型コロナの感染拡大により、4月から休会が続き、11月から再開された。保健所も参加し連携して取り組みを進めている。</p> <p>○出雲市が開催する地域ケア個別会議も8月まで休止となり、9月から開催されている。保健所も参加して、自立に向けた支援や地域課題抽出のための検討について支援している。</p> <p>○医療・介護連携専門部会を開催し、医療機能分担や連携の在り方について検討を深めた。（12/22、3/8）</p> |
| 県央 | <p>○邑智郡医師会医療連携推進コーディネーターと協力し、医師会員と訪問看護STにむけた「在宅医療にかかるアンケートとヒアリング」を実施予定（2月～）</p> <p>○医療介護連携部会において「大田圏域における医療介護連携の方向性」を整理</p> |

| | |
|----|--|
| 浜田 | <p>○多職種勉強会を実施した。(浜田市)</p> <p>○医療・介護連携サイトを活用した。(浜田市)</p> <p>○国民健康保険診療所において、へき地の在宅医療を提供。(浜田市)</p> <p>○江津市医師会在宅連携推進コーディネーター事業の推進。(江津市医師会)</p> <p>○口腔ケア等の諸問題について、多職種での情報交換会の開催。(浜田江津歯科医師会)</p> <p>○浜田圏域外の施設も含め地域連携が強化されるよう、様々な会合に積極的に参加するようにしている。(浜田医療センター)</p> <p>○江津市から「在宅医療・介護連携支援センター」を受託し、関係機関からの相談等に対応しています。(済生会江津総合病院)</p> <p>○江津市医師会から「医療連携推進コーディネーター事業」を受託し、病院内にコーディネーターを配置、市内の訪問診療提供体制の維持・拡大に取り組んでいます。(済生会江津総合病院)</p> |
| 益田 | <p>○地域包括ケアロードマップについては、津和野町及び吉賀町において、初版が作成された。また、吉賀町では、福祉部局、企画部局等、複数部局がそれぞれの所管する会議体での検討では、解決に導くことができない地域課題について話し合うため、「ロードマップ会議」を立ち上げ、町内で行われている地域づくり関係の会議体の関係性を整理することができた。</p> <p>○石西地域振興課、益田教育事務所、中山間地域研究センターと連絡会を定期開催し、生活支援体制整備事業関連の会議等に参画して共同提案をするなど、県所属機関内部で連携した上で、市町や関係者と関わっていく体制が整った。</p> <p>○益田圏域在宅医療・介護連携推進事業担当者会については、今年度はweb会議システムを利用して開催し、各市町の今年度の取り組みを振り返るとともに、来年度の取り組みについて意見交換を行った。</p> <p>○医療介護連携部会を開催し、在宅医療に関するデータを示し現状を確認するとともに、在宅医療体制の充実に向けた各機関の取り組みについて情報共有できた。</p> <p>○地域医療構想計画と地域包括ケアシステムの構築と併せて、圏域の病床機能・各病院の役割分担及び慢性期療養の圏域内の療養完結のための取組と意思決定支援等の住民啓発について継続検討。</p> <p>○益田市在宅医療・介護支援センター(益田市医師会委託)、津和野町在宅医療・介護支援センター(橘生堂委託)、吉賀町社会福祉協議会の事業に関する会議に参画し、情報提供等を行っている。</p> <p>○地域医療介護総合確保基金活用事業への支援 しまね型医療提供体制構築事業(圏域課題解決推進事業)、病床機能分化に向けた医療連携推進コーディネーター事業を益田市医師会が実施し、支援している。</p> |
| 隠岐 | <p>○在宅医療部会や難病部会において、「医療的ケアが必要な方の島内の受け皿がない」ことについて、情報交換を重ねた。医療・介護従事者間の意見交換、ACP住民啓発、入退院連携の改善・工夫等を継続検討する。</p> |

その他（医療連携体制の構築、医療に関する情報の提供）

R02年度中の取組み状況（各圏域）

1. 医療連携体制の構築

| | |
|----|--|
| 松江 | <p>○R2. 11. 17～11. 27 医療機能分化について、8病院へのヒアリングを実施した。</p> <p>○R2. 12. 21 松江保健医療対策会議 医療・介護連携部会（松江地域医療構想調整会議）を開催。圏域における医療機能分化、在宅医療等提供の現状、課題について検討した。</p> <p>○松江地域医療構想調整会議において、しまね型医療提供体制構築事業費補助金を活用し、病床転換等の施設整備について検討した。</p> <p>○R2. 10. 20 鳥取県のドクターヘリの活用が増加している安来地域におけるドクターヘリ運用の現状及び課題等について、医療政策課、安来消防及び松江保健所の三者協議の場を設け、情報共有を行った。</p> <p>○R2. 11. 17～11. 27 医療機能分化について、8病院へのヒアリングを実施した。</p> <p>○R2. 12. 21 松江保健医療対策会議 医療・介護連携部会（松江地域医療構想調整会議）を開催。圏域における医療機能分化、在宅医療等提供の現状、課題について検討した。</p> <p>○松江市内病院連携会議において病院機能リーフレットを作成。</p> |
| 雲南 | <p>○地域医療構想調整会議医療介護連携部会（11月）において、地域医療構想を踏まえた協議を実施（雲南保健所）</p> <p>○雲南医師会仁多ブロックで新型コロナウイルス感染症に関する意見交換会、情報交換会を実施（2回）（奥出雲町）</p> <p>○雲南市立病院と開業医師の症例検討会及びコロナ対策など会議（雲南医師会）</p> <p>○まめネットへの加入（飯南町立飯南病院）</p> <p>○まめネットを活用し、えがおの里診療所、掛合診療所、雲南市立病院医師への連絡・相談・指示受けなど迅速に対応できるようになった。異常の発見から診察までの時間を短縮することができた。（雲南市社会福祉協議会）</p> |
| 出雲 | <p>【取組状況】</p> <p>医療・介護連携専門部会を開催し、医療機能分担や連携の在り方等について下記の内容を検討した。（12/22、3/8）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各病院の2025年に向けた対応方針を情報共有 ・在宅医療と介護の連携について検討 ・出雲圏域保健医療計画中間見直しについて検討 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療構想の必要病床数と病床機能報告を比較すると、高度急性期・急性期病床が多く回復期病床が少ない状況となっており、圏域の需要を見極めながらさらに議論を深めていくことが求められている。 |

| | |
|-----------|---|
| <p>県央</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○保健医療計画中間見直しについて関係機関ヒアリング ○大田市担当課との情報交換会実施 ○医療介護連携部会の開催 9月6日 <ul style="list-style-type: none"> 地域医療構想について・医療と介護の連携について 病院連携協定を踏まえた取組について 12月3日 <ul style="list-style-type: none"> 大田圏域保健医療計画の中間見直しについて 地域医療構想について・病院連携協定を踏まえた取組について ○大田圏域保健医療対策会議の開催 <ul style="list-style-type: none"> 2月25日予定 島根県保健医療計画見直しの背景経過について 島根県保健医療計画（大田圏域編）の中間見直しについて 地域医療構想進捗状況について 医療介護総合確保促進基金事業について 大田圏域の新型コロナウイルス感染症患者への対応について ○しまね型医療提供体制構築事業（圏域課題解決推進事業）を活用した仁寿会の地域包括ケア推進事業展開 ○医療連携推進コーディネータ配置事業による邑智郡医師会の活動支援 ○4病院連携協定による意見交換会の実施（1/22） <ul style="list-style-type: none"> ACPをテーマに事例検討 まめネットの利用によるWEB会議で実施 ○大田圏域入退院ガイド検討委員会の実施（2/18） ○邑南町地域医療構想推進委員会への参画 ○まめネットを各種会議のWEB会議で積極的に利用、所内の施設整備実施。 ○まめネットにより大田市内居宅支援事業所等で介護認定の情報交換を実施。 |
| <p>浜田</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○令和2年12月2日に「浜田圏域保健医療対策会議 医療・介護連携部会」を開催した。現在の浜田圏域の病床については、自然と2025年必要病床数に近づきつつある。また、第8期介護保険事業計画の進捗状況を報告してもらった。在宅医療・介護連携では、在宅医療・介護連携ワーカーの報告と江津医師会 医療連携推進コーディネータ配置事業の実績報告、地域医療連携法人江津メディカルネットワークの取組を報告された。（保健所） ○浜田圏域保健医療対策会議を、令和3年3月11日に開催予定。（保健所） ○医療に関する相談を医療安全相談窓口で対応し、関係部署と連携を図り、適切な対応に努めている。【R3.2.4現在、相談者人数13名（のべ19名）】（保健所） ○浜田医療センター連携室との意見交換1回。（訪問看護） ○医療・介護連携ソートの活用推進。（訪問看護） ○浜田市医師会、浜田医療センターとの連携。（浜田市） ○地域医療連携推進法人江津メディカルネットワークの推進（江津市医師会） ○江津市医師会、能美医院とともに設立した「地域医療連携推進法人江津メディカルネットワーク」を活用し、圏域の中の江津区域における医師確保等、必要最低限の医療を提供するための取組を進めている。（済生会江津総合病院） ○地域医療構想調整会議（保健医療対策会議及び同医療・介護連携部会）においては、圏域全体で関係機関の情報共有、連携について議論を行っている。（済生会江津総合病院） ○新型コロナウイルス感染症の対応に追われ、本来のあるべき体制構築が進まなかった。しかしながらいつ何時このような事態が起ころうとも地域毎で最低限の医療提供が可能な体制作りが必要であることも実感したところである。（浜田医療センター） ○地域医療連携体制を構築するため、団体ではなく個々の病院との信頼を元にした連携を目指すとともに、それらの関係を拡大していくことにより地域の医療提供体制の向上に努めていくという方針を立案した。（浜田医療センター） ○まめネットの普及状況としては、令和2年12月末時点で、浜田市の接続数が64。江津市の接続数が21。と昨年度と比較してあまり増加はみられない。（保健所） ○まめネットカード発行枚数としては、令和2年12月末時点で、浜田市が4,146枚、江津市が2,207枚と増加している。（保健所） |

○広報誌により、まめネット[®]を周知した。（浜田市）
 ○R2.4月より「しまね医療情報ネットワーク（通称：まねネット）」への連携を開始し、診療情報を共有できる体制とした。（環境保健公社）
 ○まめネットの活用（訪問看護）
 ○地域包括ケアシステムの構築を進めるため「まめネット」の提供情報を拡大し、医療機関、介護施設等との連携を深めることとしている。
 （済生会江津総合病院）

益田

○益田圏域保健医療対策会議及び同医療・介護連携部会、益田地域病院長等連絡会議において、圏域地域医療構想の進捗について検討を進めている。
 益田地域医療センター医師会病院は、地域包括ケア病床の効率的な活用に向け病床再編を予定している。
 吉賀町では、吉賀町医療と介護のあり方の検討が継続して行われている。
 ○益田市医師会が助成を受けている「地域医療介護総合確保基金」の「しまね型医療提供体制構築事業（圏域課題解決推進事業）」「医療連携推進コーディネーター配置事業」実施について、益田市医師会、益田市、保健所が協議しながら進めている。
 ○益田市医師会が実施している基金事業「圏域課題解決推進事業」の中の管内医療連携実務者会議では、圏域の入退院連携の課題について情報交換がされている。R2年度は、まめネットweb会議システムを利用し開催した。入退院連携や、療養病棟利用患者の圏域外への流出への対応、まめネットの活用状況等について取り上げ、進捗確認や対応策の検討を行った。
 ○昨年度作成した「益田版入退院連携ガイド（住民向け）」は、各病院入退院説明時に利用したり、待合スペースに配架して活用している。
 ○（二次医療圏・県境を越えた医療連携について）消防本部における、益田地区救急業務連絡協議会、県が実施する島根県ドクターヘリ調整委員会等において検討されている。
 ○益田圏域は他圏域に比べ、普及率は低いですが、津和野共存病院・津和野町において、まめネットの普及をすすめられている。
 益田圏域加入状況（R3年2月末現在）
 加入施設：19施設（病院5、診療所7、歯科診療所1、薬局4、訪問看護2）
 加入者：R3.1月現在3,544人（加入者は圏域人口の6.17%、全県は人口の9.39%）
 ○津和野共存病院と益田赤十字病院間では、連携カルテ機能の利用やWeb会議システムを利用した褥瘡回診等を行っている。津和野共存病院と津和野町において、まめネットWeb会議システムを利用し、地域住民に対して、遠隔医療相談を行っている。

| | |
|-----------|--|
| <p>隠岐</p> | <p>○隠岐病院・町立診療所医療連携体制検討委員会において検討されている「隠岐病院・町立診療所の一体的運用（R4実施予定）」について情報提供。病院・各診療所の役割分担、在宅医療体制の推進に向けて検討中。</p> <p>○島後住民を中心に、健康な時から医療・介護について理解を深め、病気の適性管理や医療的ケアの選択等を盛り込んだACP啓発媒体を作成中。 （隠岐広域連合・隠岐病院・隠岐の島町・隠岐保健所協働）</p> <p>○在宅医療部会や難病対策部会等において、情報共有の1つの手法として「まめネットの活用」について、委員から意見が挙げられた。今後勉強会を企画。</p> <p>○R3こころの相談事業において、まめネット端末を活用したリモート相談を検討中。</p> <p>○精神患者の退院支援会議をまめネットで開催。遠隔でも複数の出席者でタイムリーでリアルな会議ができた。</p> |
|-----------|--|

2. 医療に関する情報提供の推進

| | |
|-----------|---|
| <p>松江</p> | <p>○新型コロナウイルス対策に伴い、発熱時等の受診における受診先、受診方法についての周知、相談対応を実施。</p> <p>○（医療機能情報システムについて）新規開設された医療施設(6施設)に対して、制度説明を行うとともにシステムを活用した情報提供を依頼した。</p> <p>○医療監視の際には、システムの入力状況、情報の更新状況を確認し、必要に応じて指導を実施した。</p> <p>○医療機関等が行う広告に係る相談対応、指導を実施した。</p> |
| <p>雲南</p> | <p>○講演会の実施 「コロナウイルス 正しく知って正しく恐れよう」 講師 島根大学医学部 佐野千晶 教授 (がんばれ雲南病院市民の会)</p> |
| <p>出雲</p> | <p>○医療安全相談窓口専用ダイヤルを設置し運用している。 相談件数：（H30年度：30件、R元年：25件、R2年度：41件（R3年1月末時点））</p> |
| <p>県央</p> | <p>○「島根県医療機能情報システム」について、医療法の立入検査時に指導 新規開設1箇所 2月10日 ○医療相談電話等で随時対応 9件数</p> |

| | |
|-----------|---|
| <p>浜田</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症の流行により方法を変更し、1回パンフレットを配布（感染予防等）し、啓発活動を実施した。（看護協会 浜田支部） ○浜田の地域医療を守る会の活動をサイト。浜田市内医療機関情報をホームページに掲載。（浜田市） ○ジェネリック医薬品軽減額通知の送付、医療費通知の送付（全国健康保険協会） ○今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により難病サロンを1回（R2.9.15）のみ開催し、医療に関する情報提供をした。（保健所） ○各疾患、障がいについて研修会を予定するも、感染症予防対応にて未実施。（リウマチ教室や重心の方を支援する家族・介護者への講義等）（西部島根医療福祉センター） ○新型コロナウイルス感染症の影響により、本来の情報提供が出来なかった。しかしながらいつ何時このような事態が起ころうとも地域毎で最低限の医療に関する情報の発信ができる体制作りが必要であることも実感した。（浜田医療センター） ○当院主催の各委員会及び協議会（含む書面会議）を開催し、行政機関等関係各所へ当院の現状を情報発信した。（浜田医療センター） ○診療情報等の診療情報提供については、医療の透明性、患者の自己決定権を確保するため、引き続き積極的な提供を行っています。（済生会江津総合病院） ○随時、違法な広告の問い合わせがあった時は、医療政策課と協議し、対応・指導している。（保健所） ○（外国人患者について）各医療機関から問い合わせがあった場合は、保健所が支援する。（保健所） ○外国人が安心して適切な医療が受けられるよう多言語表示案内板を設置したり、タブレットを活用する等環境整備を行っています。（済生会江津総合病院） |
| <p>益田</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○「益田市の医療を守る市民の会」「津和野町の医療を支援する会」や「がんサロン」等に求めに応じ支援をしている。 ○島根県医療機能情報システムの更新を随時行い、住民からの問い合わせに活用するとともに、圏域の在宅医療・緩和ケア資源情報の整理にも活用している。 ○情報についての質問や相談について、保健所に設置されている医療安全相談窓口で対応している。 ○（医療機能情報システムについて）各機関等の開設時に適宜指導している。 ○住民からの苦情・相談について、内容を検討し、適切な対応に努めている。 |